Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90005

受付時間：平日 9:00～20:00
土・日・祝日 10:00～17:00
(1月1日～1月3日は休ませていただきます)

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9630をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノンデジタルカメラ製品情報
http://canon.jp/cdc

キヤノンサポートページ
http://canon.jp/support

CANON iMAGE GATEWAY
http://www.imagegateway.net

CDI-J348-010 PRINTED IN MALAYSIA

Canon キヤノンデジタルカメラ PowerShot A590 IS カメラユーザーガイド

Canon

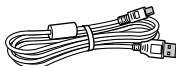
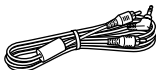
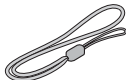
PowerShot A590 IS カメラユーザーガイド

さっそくカメラを使ってみよう！ p.7

ご使用の前に「安全上のご注意」を必ずお読みください（p.154 ～ 161）。

DiG!C III

はじめにお確かめください（付属品）

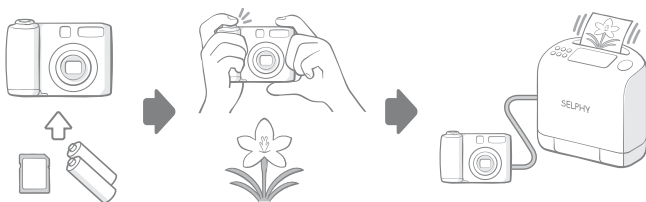
パッケージには以下のものが入っています。万一、不足のものがありましたら、お手数ですがお買い求めの販売店までご連絡ください。

付属のメモリーカードでは、このカメラの性能を十分に発揮できない場合があります。

さっそく使おう！ 使いこなそう！

本書は、以下の 2 部構成となっています。

まずは...

さっそく カメラを使ってみよう！ p.7

カメラを使うために必要な準備から、撮影、再生の基本操作、簡単な印刷のしかたまでを説明しています。まずはカメラに慣れ、基本操作をマスターしましょう。

使いこなすために

もっと カメラを使ってみよう！ p.37

カメラに慣れたら、さまざまな機能を使って思いどおりの撮影を楽しみましょう。ここでは、各機能の詳しい操作方法のほか、テレビにつないで画像を見る方法なども説明しています。

目次

☆のページでは、このカメラの機能や操作をまとめて記載しています。

このガイドについて

本文中のマークについて

撮影モードによってはお使いになれない機能があります。
この記載がないときは、すべてのモードでお使いになれます。

：カメラを正しく動作させるための注意や制限を記載しています。

：カメラを使用するにあたって知っておくと便利なこと、参考になることを記載しています。

本書では、お買い上げ時の設定状態で説明しています。
このガイドで説明されているイラストや画面表示は、実際と異なる場合があります。

このカメラでは、SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、マルチメディアカード、MMCplus カードと HC MMCplus カードをお使いになれます。このガイドでは、これらをカードと表記します。

必ずお読みください

試し撮り

必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、このカメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みがされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがこのカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様相談センター」にご相談ください。

ご注意

本体温度について

このカメラは、電源を入れたあと長時間お使いになっていると、本体温度が高くなることがありますが、故障ではありません。

液晶モニターについて

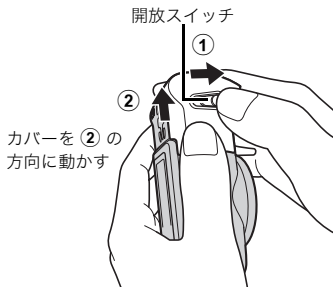
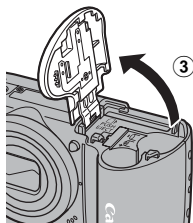
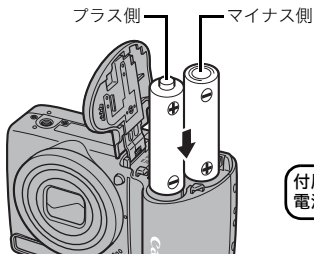
液晶モニターは､非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。

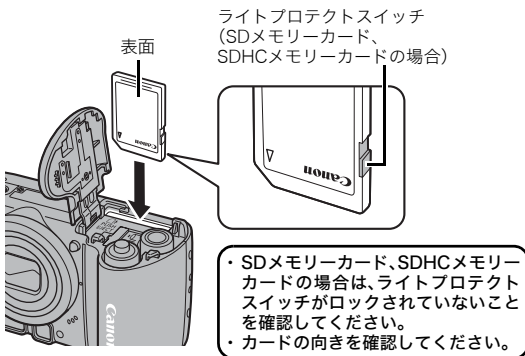
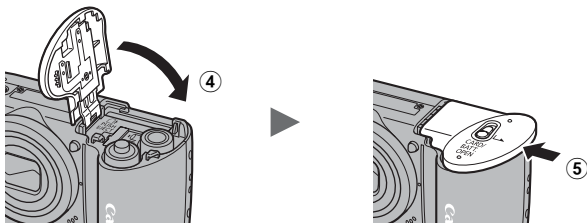
さっそく
カメラを使ってみよう!

- 準備する
- 静止画を撮る
- 静止画を見る
- 消去する
- 印刷する
- 画像に日付を入れる
- 動画を撮る
- 動画を見る
- パソコンに取り込む
- システムマップ

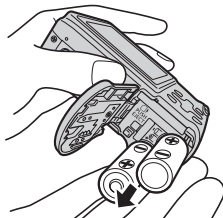
準備する

電池とカードを入れる

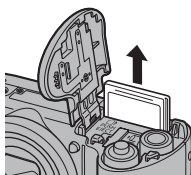
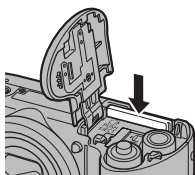
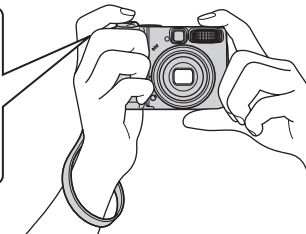
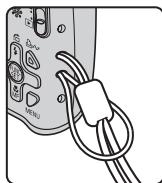
1. 開放スイッチを ① の方向にスライドしたまま、カバー全体を押さえながら、② の方向に動かして、カバーを開く（③）

2. 電池を 2 本入れる

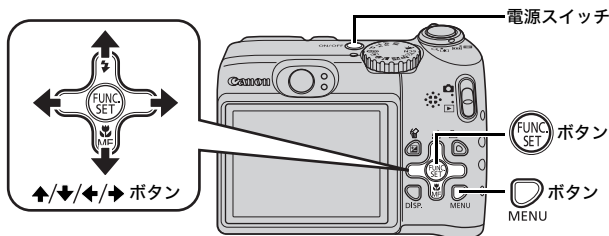
3. カードを「カチッ」と音がするまで差し込む

4. カバーを閉じ（④）、押さえながら「カチッ」と音がするまでスライドする（⑤）

カードは、必ず正しい向きでカメラに入れてください。誤って逆に入れた場合、カメラがカードを認識しなかったり、カメラの故障の原因となることがあります。

電池を取り出すには

カバーを開け、電池を取り出します。

電池を落とさないように注意してください。

カードを取り出すには

「カチッ」と音がするまで、指でカードを奥に押し込んで、放します。

落下防止のため、リストストラップを装着してお使いください。

日付と時刻を設定する

はじめて電源を入れたときは、日付／時刻の設定画面が表示されます。

1. 電源スイッチを押す

2. 年、月、日、時、分、表示順を選ぶ

1. ◀/▶ ボタンで項目を選ぶ
2. ▲/▼ ボタンで内容を設定する

3. (FUNC. SET) ボタンを押す

すでに設定されている日付 / 時刻を変更したいとき

下記の手順で日付 / 時刻の設定画面を表示させてから、上記の手順 2、3 を行ってください。

1. (MENU) ボタンを押す

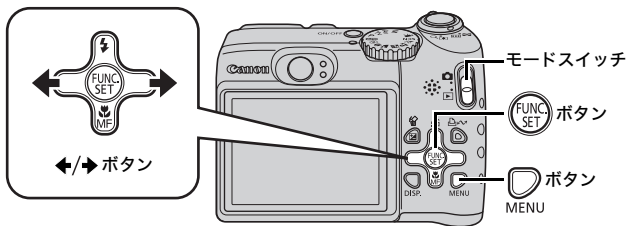
2. ◀/▶ ボタンで[(設定)]メニューを選ぶ

3. ▲/▼ ボタンで[日付 / 時刻]を選ぶ

4. (FUNC. SET) ボタンを押す

コイン型リチウム電池の容量がなくなったときにも、日付 / 時刻の設定画面が表示されます（p.172）。

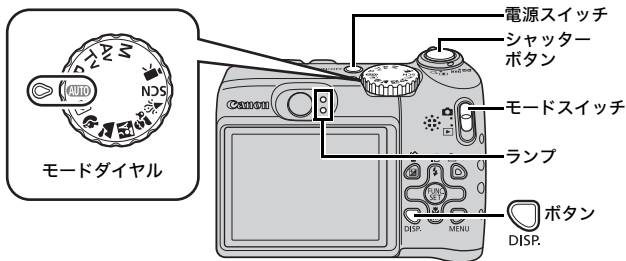
表示言語を切り換える

液晶モニターに表示する言語を英語にすることもできます。
（お買い上げ時は日本語に設定されています。）

1. モードスイッチを▶（再生）に合わせる

2. FUNC. SET ボタンを押したまま、MENU ボタンを押す

3. ←/→ ボタンで表示したい言語を選ぶ

4. FUNC. SET ボタンを押す

静止画を撮る（AUTO オートモード）

1. 電源スイッチを押す

・起動音が鳴り、液晶モニターに起動画面が表示されます。
・もう一度電源スイッチを押すと、電源が切れます。

2. 撮影モードを選ぶ

1. モードスイッチを（撮影）に合わせる
2. モードダイヤルを AUTO（オート）に合わせる

3. 被写体にカメラを向ける

手ぶれを起こさないために
脇をしめ、カメラをしっかり構えてください。三脚を使用することも効果的です。

4. シャッターボタンを浅く押して（半押し）、ピントを合わせる

・ピントが合うと電子音が「ピピッ」と 2 回鳴り、ランプが点灯します。

5. そのままシャッターボタンを深く押して(全押し)、撮影する

・シャッター音が鳴り、撮影されます。
・撮影直後に約 2 秒間、液晶モニターに撮影した画像が表示されます（レックレビュー）。画像が表示されている間も撮影できます。
・撮影後、シャッターボタンを押し続けると、画像を表示し続けます。
・ランプが緑色に点滅し、カードに記録されます。

ピントの合った画像を撮るために

シャッターボタンを半押し*すると、ピントを自動的に合わせます(オートフォーカス)。

* シャッターボタンは 2 段階になっています。シャッターボタンを 1 段目まで押すことを「半押し」といいます。

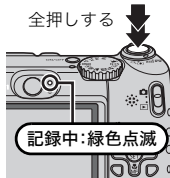
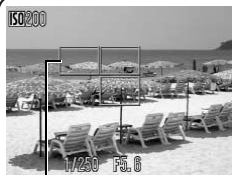
良い例

半押ししてピントを合わせる

ピピッ

撮影準備完了:緑色点灯(ストロボ発光時は橙色)

全押しする

記録中:緑色点滅

ピントが合った位置に AF フレームが緑色で表示されます

AF フレーム

悪い例

一気に押し込む

消音の設定について

DISP. ボタンを押しながら電源を入れると、音が鳴らない設定になります。設定の変更は、設定メニューの［消音］で行います（p.49）。

らくらくモードでかんたん撮影

このカメラの撮影モードには、ストロボ以外の設定をすべてカメラにまかせて撮影する「らくらくモード」があります。初めてカメラをお使いになる方や、カメラの操作にあまり慣れていない方におすすめのモードです。ストロボを使うかどうかは ボタンで選べるので、ストロボが禁止されている場所でも安心してお使いいただけます。

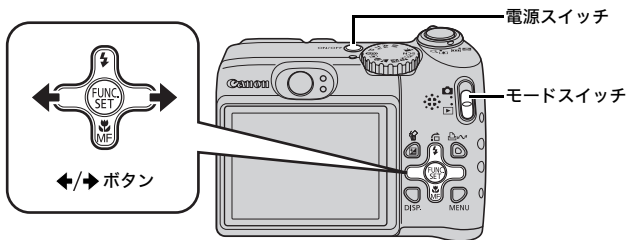
1. モードダイヤルを (らくらくモード)に合わせる

2. 被写体にカメラを向ける

3. シャッターボタンを浅く押して(半押し)、ピントを合わせる

4. そのままシャッターボタンを深く押して(全押し)、撮影する

らくらくモードでは、ストロボ以外の設定はできません(MENU ボタンや FUNC./SET ボタンを押してもメニューは表示されません)。

静止画を見る

1. 電源スイッチを押す

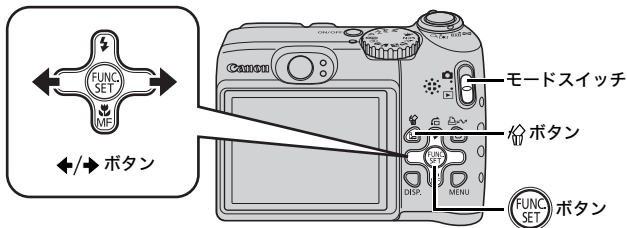
2. モードスイッチを▶(再生)に合わせる

3. ◆/◆ボタンで見たい画像を表示する

・◆ボタンで前の画像、◆ボタンで次の画像を表示します。

・ボタンを押し続けると早く進みます。ただし、表示される画像は粗くなります。

- 再生メニューの［再生開始位置］で、再生時に表示する画像（［前回の画像］＊または［最新の画像］）を選択できます（＊初期設定）。
- ［前回の画像］を選ぶと、最後に再生した画像を表示します（再生レジューム）。
- 以下の操作を行うと、［再生開始位置］の設定にかかわらず、最新の画像が表示されます。
  - 撮影する
  - カードを交換する
  - パソコンでカード内の画像を編集する

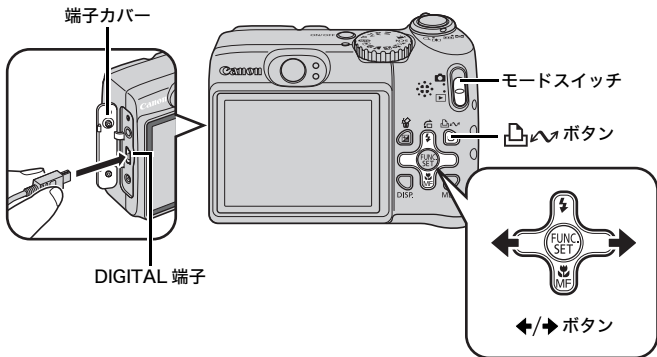
消去する

1. モードスイッチを▶（再生）に合わせる

2. ◆/◆ボタンで消去したい画像を選び、ボタンを押す

3. [消去]が選択されていることを確認し、ボタンを押す

消去を中止するときは、[キャンセル]を選びます。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

印刷する

1. カメラとカメラダイレクト対応プリンターを接続する

- カメラの端子カバーを開き、インターフェースケーブルを奥まで差し込みます。
- プリンターの接続方法は、プリンターに付属の使用説明書でご確認ください。
- 「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応していれば、キヤノン製以外の PictBridge 対応プリンターでも印刷できます。

詳しくは、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

2. プリンターの電源を入れる

3. カメラのモードスイッチを▶（再生）に合わせ、電源スイッチを押す

- ボタンが青色に点灯します。

4. ←/→ ボタンで印刷したい画像を選び、ボタンを押す

- ボタンが青く点滅し、印刷が始まります。

印刷予約をして簡単に印刷する

撮影直後や画像の再生中にボタンを押すだけで、印刷予約（DPOF）ができます。印刷予約をして、カメラをプリンターに接続すると、簡単に印刷できます。

印刷予約をする

1. ボタンを押す（動画は除く）

2. 印刷予約をする

1. ▲/▼ ボタンで印刷枚数を決める
2. ◀/▶ ボタンで［予約する］を選ぶ
3. (FUNC./SET) ボタンを押す

・印刷予約を解除するときは、再度ボタンを押し、◀/▶ボタンで［解除する］を選び、FUNC./SET ボタンを押します。

印刷予約した画像を印刷する

キヤノン製 SELPHY ES シリーズ /SELPHY CP シリーズのプリンターを例にして説明します。

1. カメラとプリンターを接続する

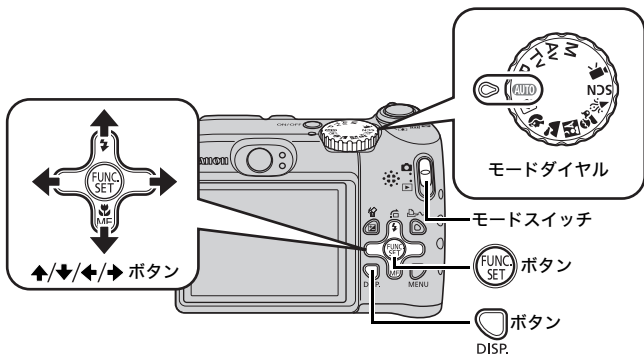
2. 印刷する

1. ▲/▼ ボタンで［すぐに印刷］を選ぶ
   ・◀/▶ ボタンで印刷予約した画像を確認できます。
2. (FUNC./SET) ボタンを押す
   ・印刷が始まります。
   ・印刷を中断して再開した場合は、続きの画像から印刷されます。

印刷される枚数

画像に日付を入れる

ここでは、撮影時に画像に日付を入れる方法について説明します（日付写し込み）。

・画像に日付が写し込まれるため、写し込んだ日付は削除することができません。あらかじめ日付 / 時刻が正しく設定されていることを確認してください（p.11）。
・画像サイズは 2M（1600 × 1200）、圧縮率はファインに固定されます（L 判やはがきサイズでの印刷に適しています）。

1. 電源スイッチを押す

2. 撮影モードを選ぶ

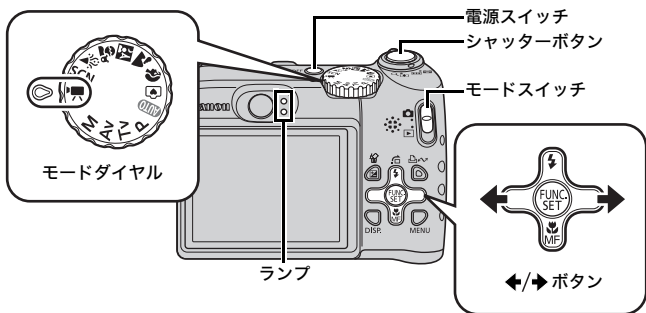
1. モードスイッチを（撮影）に合わせる
2. モードダイヤルを AUTO（オート）に合わせる
   ・他の撮影モードでも設定できます（らくらくモードと動画を除く）。

3. (日付写し込み)を選ぶ

1. (FUNC. SET)ボタンを押す
2. ▲/▼ ボタンで L を選ぶ
3. ◀/▶ ボタンで を選ぶ
   - ・印刷されない領域がグレーになります。
   - ・DISP.ボタンを押すと、◀/▶ボタンで［日付＋時刻］に切り換わります。

日付が写し込まれていない画像も、次の方法で日付を入れて印刷することができます。

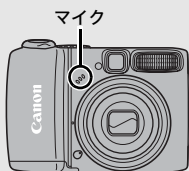
・カメラの印刷指定（DPOF）機能で設定する
　(印刷）メニューの［印刷の設定］で［日付］を［入］にします。
・カメラとプリンターを接続して印刷する
　ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。
・カードをプリンターに差して印刷する
　プリンターの使用説明書をご覧ください。
・付属のソフトウェアで設定する
　ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

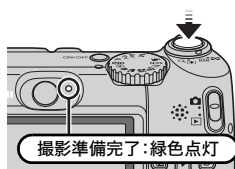
動画を撮る（スタンダードモード）

1. 電源スイッチを押す

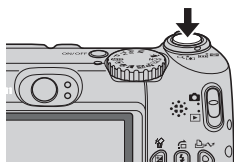
2. 撮影モードを選ぶ

1. モードスイッチを（撮影）に合わせる
2. モードダイヤルを（動画）に合わせる
3. ◆/◆ ボタンで（スタンダード）を選ぶ

3. 被写体にカメラを向ける

- 撮影中はマイクに触れないでください。
- シャッターボタン以外のボタンを押さないでください。ボタンを押す音も記録されてしまいます。

4. シャッターボタンを浅く押して(半押し)、ピントを合わせる

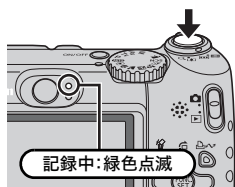
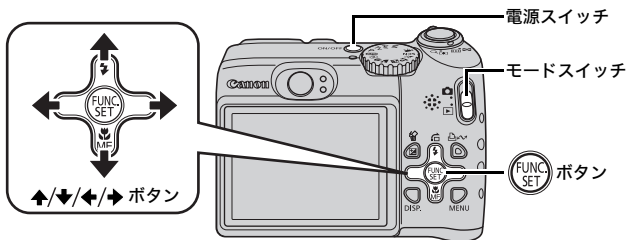
・ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ランプが緑色に点灯します。
・露出、フォーカス、ホワイトバランスが自動設定されます。

5. そのままシャッターボタンを深く押して(全押し)、撮影する

・撮影が開始されます。

・撮影中は、液晶モニターに撮影時間と［●録画］が表示されます。

撮影時間

6. もう一度シャッターボタンを全押しして撮影を終了する

・ランプが緑色に点滅し、カードに記録されます。
・最長記録時間を経過したときや、カメラ内部のメモリーやカード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終了します。

さっそくカメラを使ってみよう！

動画を見る

1. 電源スイッチを押す

2. モードスイッチを▶(再生)に合わせる

3. ◀/▶ボタンで動画を表示し、FUNC. SETボタンを押す

・動画には SET 🎥が表示されます。

4. ◀/▶ボタンで▶(再生)を選び、FUNC. SETボタンを押す

・動画が再生されます。
・再生中に FUNC./SET ボタンを押すと、再生の一時停止 / 再開ができます。
・▲/▼ ボタンで音量の調節ができます。

パソコンに取り込む

付属のソフトウェアを使用することをおすすめします。

用意するもの

- **カメラとパソコン**
- **カメラに付属の「Canon Digital Camera Solution Disk」**
- **カメラに付属のインターフェースケーブル**

パソコンに必要なシステム構成

ソフトウェアは、以下の条件を満たすパソコンにインストールしてください。

■Windows

OS	Windows Vista Windows XP Service Pack 2 Windows 2000 Service Pack 4
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	Windows Vista ：Pentium 1.3GHz以上 Windows XP / Windows 2000 ：Pentium 500MHz以上
RAM	Windows Vista ：512MB以上 Windows XP / Windows 2000 ：256MB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	●Canon Utilities ・ZoomBrowser EX ：200MB以上 ・PhotoStitch ：40MB以上 ●Canon Camera TWAIN Driver ：25MB以上
ディスプレイ	1,024×768ドット High Color（16bit）以上

■Macintosh

OS	Mac OS X（v10.3～v10.4）
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	PowerPC G3/G4/G5またはIntel プロセッサー
RAM	256MB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	●Canon Utilities ・ImageBrowser ：300MB以上 ・PhotoStitch ：50MB以上
ディスプレイ	1,024×768ドット 32,000色以上

画像を取り込む準備をする

Windows 2000 をお使いの場合は、必ずソフトウェアをインストールしてから、カメラとパソコンを接続してください。

1. ソフトウェアをインストールする

■ Windows

1. **Canon Digital Camera Solution Disk を CD-ROM ドライブにセットする**
2. **[おまかせインストール]をクリックする**
   表示されるメッセージにしたがって、インストールを進めます。

3. **インストールの終了後、[再起動]または[完了]をクリックする**
   インストールが終了すると、[再起動]または［完了］が表示されます。表示されたボタンをクリックします。

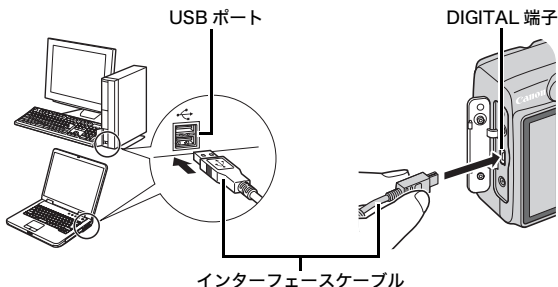
4. **通常のデスクトップの画面が表示されたら、CD-ROM を取り出す**

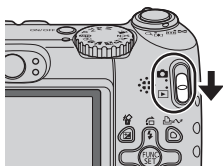
■ Macintosh

CD-ROM 内の をダブルクリックすると、右の画面が表示されます。［インストール］を選択し、表示されるメッセージにしたがって、インストールを進めます。

2. カメラとパソコンを接続する

1. **付属のインターフェースケーブルで、パソコンの USB ポートとカメラの DIGITAL 端子を接続する**

   カメラの端子カバーを開き、インターフェースケーブルを奥まで差し込みます。

3. カメラとパソコンを通信できる状態にする

1. **モードスイッチを ▶（再生）に合わせ、電源を入れる**

［デジタル署名が見つかりませんでした］と表示された場合は、［はい］をクリックしてください。接続が完了し、カメラとパソコンが通信できる状態になると、USB ドライバが自動的にパソコン内にインストールされます。

4. CameraWindow を表示する

■ Windows

［Canon CameraWindow］を選び、
［OK］をクリックする

上記のウィンドウが表示されない場合は、［スタート］メニューから［すべてのプログラム］または［プログラム］▶［Canon Utilities］▶［CameraWindow］▶［CameraWindow］▶［CameraWindow］を選択します。

カメラウィンドウが表示されます。

■ Macintosh

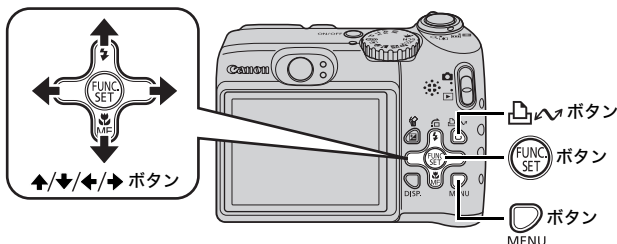
カメラとパソコンが通信できる状態になると、カメラウィンドウが表示されます。表示されない場合は、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の［CameraWindow］アイコンをクリックします。

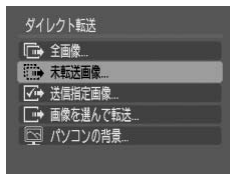
これで、画像を取り込む準備ができました。
「カメラの操作で画像を取り込む（ダイレクト転送）」（p.29）にお進みください（Windows 2000 を除く）。

- パソコンの操作での取り込み方法については、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
- Windows 2000 をお使いの場合は、パソコンの操作で画像を取り込みます。

カメラの操作で画像を取り込む（ダイレクト転送）

カメラの操作で画像を取り込めます（Windows 2000 を除く）。

初めてダイレクト転送で画像を取り込むときは、最初にソフトウェアをインストールしておいてください（p.26）。

1. カメラの液晶モニターにダイレクト転送画面が表示されていることを確認する

・ボタンが青色に点灯します。
・ダイレクト転送画面が表示されない場合は、MENU ボタンを押してください。

ダイレクト転送画面

2. ボタンを押す

・まだパソコンに取り込まれていない画像がすべて取り込まれます。

以下のように、ダイレクト転送画面で画像の取り込み方法を指定することもできます。

	全画像	すべての画像をパソコンに取り込み、保存します。
	未転送画像	まだ取り込んでいない画像だけをパソコンに取り込み、保存します。
	送信指定画像	送信指定した画像だけをパソコンに取り込み、保存します。
	画像を選んで転送	画像を見ながら1画像ずつパソコンに取り込み、保存します。
	パソコンの背景	画像を見ながら、パソコンのデスクトップの背景にしたい画像を取り込みます。取り込んだ画像は、パソコンのデスクトップに背景として表示されます。

[全画像]、[未転送画像]、[送信指定画像]のとき

1. ↑/↓ ボタンで 、 、 のいずれかを選び、 ボタンを押す

- 画像が取り込まれます。取り込み中は、 ボタンが青色に点滅します。
- 取り込みが終了するとダイレクト転送画面に戻ります。
- 取り込みを中止するときは、FUNC./SET ボタンを押します。

[画像を選んで転送]、[パソコンの背景]のとき

1. ↑/↓ボタンで または を選び、 ボタン(または FUNC. SET ボタン)を押す

2. ←/→ボタンで取り込みたい画像を選び、印刷/共有ボタンを押す

・画像が取り込まれます。取り込み中は、印刷/共有ボタンが青色に点滅します。

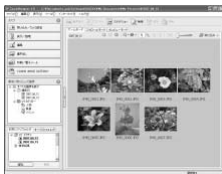
3. 取り込み後、MENUボタンを押す

・ダイレクト転送画面に戻ります。

［パソコンの背景］で指定できるのは、JPEG 画像のみです。

印刷/共有ボタンで選択した項目は、カメラの電源を切っても記憶されます。次回、ダイレクト転送画面を表示したときは、前回設定した項目が選択されます。［画像を選んで転送］と［パソコンの背景］を選択していたときは、ただちに画像を選択する画面が表示されます。

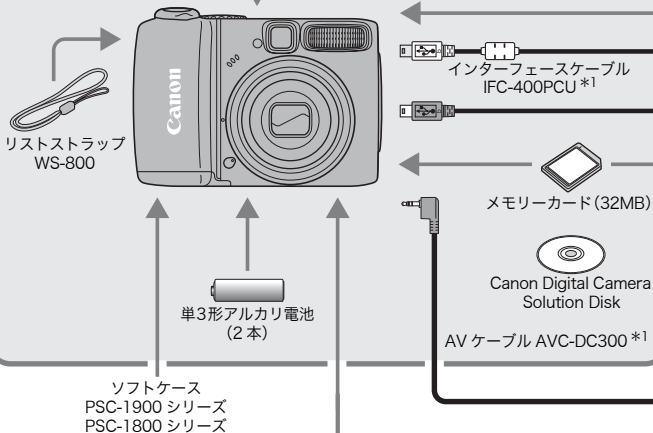
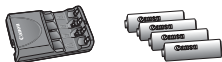
カメラウィンドウの右下に表示される［×］をクリックすると、パソコンの画面に取り込まれた画像が表示されます。

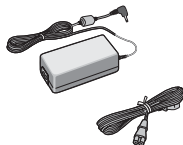
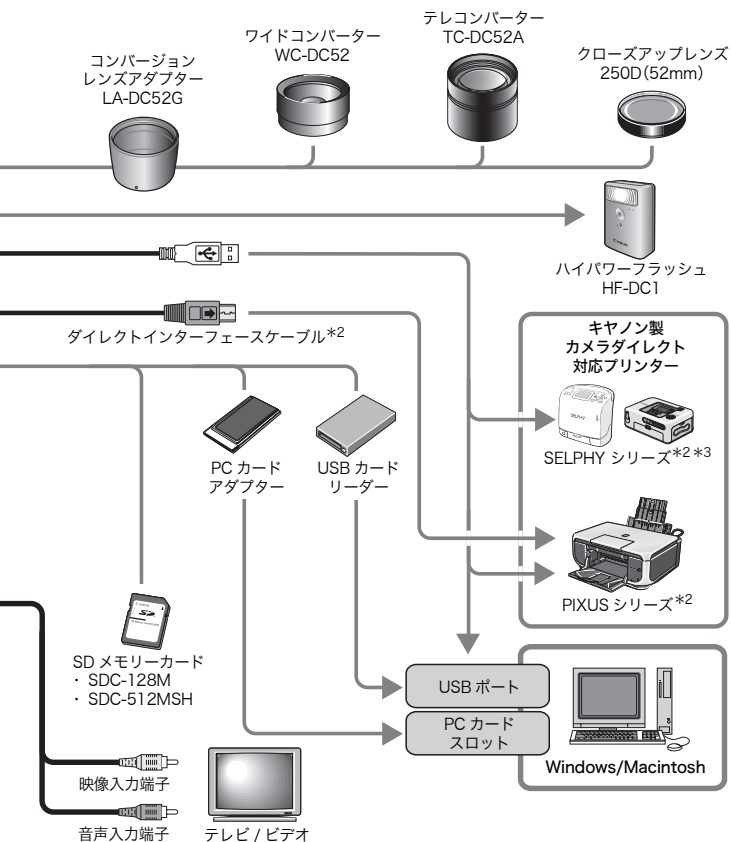
■ Windows

ZoomBrowser EX

■ Macintosh

ImageBrowser

初期設定では、パソコンに取り込まれた画像は、撮影日ごとにフォルダに保存されます。

システムマップ

バッテリー/ チャージャーキット CBK4-300*4

- ■ バッテリーチャージャーCB-5AH
- ■ 単3形ニッケル水素電池(NB-3AH 4 本入り)
- ・ 単3形ニッケル水素電池 4 本セット(NB4-300)の別売りも用意されています。
- ・ このカメラで使用する電池は 2 本です。

AC アダプターキット ACK800

- ■ コンパクトパワーアダプター CA-PS800
- ■ 電源コード

*1 別売りも用意されています。
*2 PIXUS シリーズ /SELPHY DS シリーズのプリンターに接続するケーブルや、プリンターに関することは、プリンターに付属の使用説明書をご覧ください。
*3 CP-10/CP-100/CP-200/CP-300 もお使いになれます。
*4 バッテリーチャージャーキット CBK4-200 もお使いになれます。

アクセサリー（別売）

必要に応じてお買い求めのうえ、ご利用ください。
（アクセサリーは、諸事情により販売を終了することがあります。）

レンズ・レンズアダプター

- **コンバージョンレンズアダプター LA-DC52G**
  ワイドコンバーター、テレコンバーターをカメラに取り付けるためのアダプターです。
- **ワイドコンバーター WC-DC52**
  カメラに取り付けると、カメラ本体の焦点距離の 0.7 倍で撮影できます。
- **テレコンバーター TC-DC52A**
  カメラに取り付けると、カメラ本体の焦点距離の 1.75 倍で撮影できます。
- **クローズアップレンズ 250D（52mm）**
  カメラに取り付けると、通常撮影でレンズ前面から被写体までが、テレ端で 4 ～ 17cm の至近距離で撮影できます。

ストロボ

- **ハイパワーフラッシュ HF-DC1**
  被写体が遠すぎて内蔵ストロボが届かないときに、カメラに取り付けて使用する補助ストロボです。

電源

- **AC アダプターキット ACK800**
  家庭用コンセントから電源を供給するためのキットです。カメラを長時間連続して使うときや、パソコンと接続するときには、この AC アダプターキットをお使いになることをおすすめします。
  （本体内充電はできません。）

- **バッテリー / チャージャーキット CBK4-300**
  充電式の単 3 形ニッケル水素電池（4 本）と専用の充電器のセットです。多くの画像を撮影したり、長時間再生するときにお使いになると便利です。
  さらに追加で「ニッケル水素電池 NB4-300」もお買い求めいただけます。

その他

- **SD メモリーカード**
  撮影した画像を記録するためのカードです。キヤノン製では128MB、512MB の容量のカードがあります。
- **インターフェースケーブル IFC-400PCU**
  カメラとパソコン、またはカメラと SELPHY シリーズや PIXUS シリーズ*のプリンターを接続するケーブルです。
  *プリンターに付属の使用説明書でご確認ください。
- **AV ケーブル AVC-DC300**
  カメラとテレビやビデオを接続するケーブルです。
- **ソフトケース PSC-1900 シリーズ**
  PSC-1800 シリーズ
  カメラをキズやホコリから守ります。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします。

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

カメラダイレクト対応プリンター

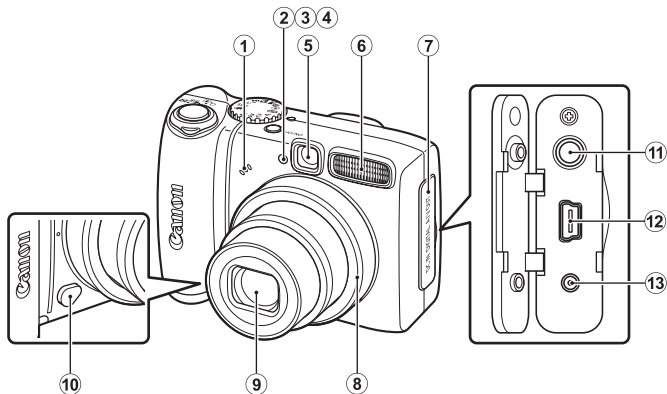
以下のプリンターが用意されています。カメラとプリンターをケーブルで直接つないで、カメラのボタン操作だけで撮影した画像を印刷できます。

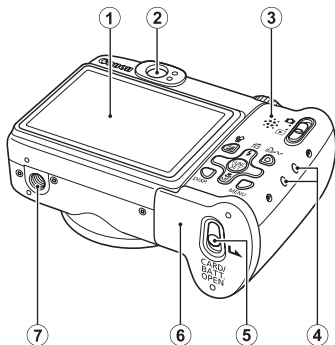
- **SELPHY シリーズ**
- **PIXUS シリーズ**

商品の詳細やお使いになれるアクセサリーについては、カメラユーザーガイド裏表紙に記載されているホームページや商品カタログでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。

もっと
カメラを使ってみよう!

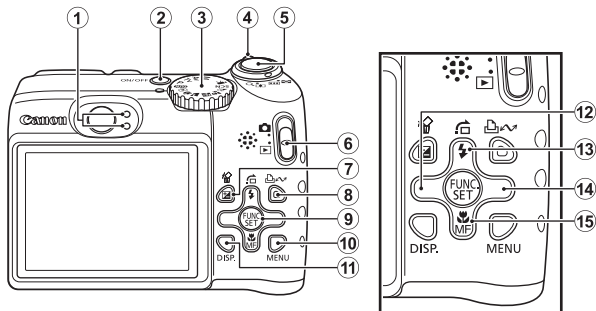
各部の名称

■ 前面

① マイク(p.22、120)
② AF 補助光投光部(p.47)
③ 赤目緩和ランプ(p.79)
④ セルフタイマーランプ(p.58)
⑤ ファインダー窓(p.39)
⑥ ストロボ(p.57)
⑦ 端子カバー
⑧ リング(p.167)
⑨ レンズ
⑩ リング取り外しボタン(p.167)
⑪ A/V OUT(映像 / 音声出力)端子(p.138)
⑫ DIGITAL(デジタル)端子(p.27)
⑬ DC IN(電源入力)端子(p.165)

■背面

① 液晶モニター(p.51)
② ファインダー接眼部
③ スピーカー
④ リストストラップ取り付け部(p.10)
⑤ メモリーカードスロット / バッテリーカバー開放スイッチ(p.8)
⑥ メモリーカードスロット / バッテリーカバー(p.8)
⑦ 三脚ねじ穴

ファインダーの使いかた

液晶モニターを非表示にし（p.51)、ファインダーを使って撮影すると消費電力を抑えることができます。

■ 操作部

1. ランプ(p.41)
2. 電源スイッチ(p.13)
3. モードダイヤル(p.13、65)
4. ズームレバー(p.53、102)
   撮影時：(広角)／(望遠)
   再生時：(インデックス)／(拡大)
5. シャッターボタン(p.13)
6. モードスイッチ(p.16)
7. (露出)/(1 画像消去)ボタン(p.91、17)
8. (イージーダイレクト)ボタン(p.18、29、100)
9. FUNC./SET(ファンクション / セット)ボタン(p.42)
10. MENU(メニュー)ボタン(p.43)
11. DISP.(ディスプレイ)ボタン(p.51)
12. ←ボタン
13. (ジャンプ)/(ストロボ)/ ↑ボタン(p.106、57)
14. →ボタン
15. (マクロ)/MF(マニュアルフォーカス)/ ↓ボタン(p.57、88)

ランプの点灯 / 点滅について

以下の場合に、カメラのランプが点灯 / 点滅します。

- **上側のランプ**
  緑点灯：撮影準備完了（電子音が 2 回鳴ります）/ パソコン接続時 / ディスプレイオフ時
  緑点滅：カメラ起動中 / 画像の記録 / 読み出し / 消去 / 転送（パソコン / プリンター接続時）
  橙点灯：撮影準備完了（ストロボ発光）
  橙点滅：撮影準備完了（手ぶれ警告 / ストロボ充電中）
- **下側のランプ**
  黄点灯：マクロ撮影 / マニュアルフォーカス撮影 / AF ロック撮影
  黄点滅：ピントが合いにくいとき（電子音が 1 回鳴ります）

ランプが緑色に点滅しているときは、絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れることがあります。
- 振動や衝撃を与える
- 電源を切ったり、メモリーカードスロット / バッテリーカバーを開ける

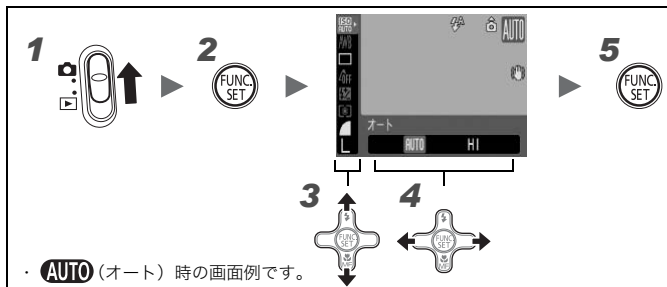
操作の基本

メニューの設定のしかた

撮影時や再生時の設定や、印刷の設定、日付 / 時刻、電子音などのカメラの設定は、FUNC.メニューまたは撮影 / 再生 / 印刷 / 設定メニューで設定します。

FUNC. メニュー（FUNC.SET ボタン）

撮影時に、よく使う機能を設定します。

・AUTO（オート）時の画面例です。

1 モードスイッチを（撮影）に合わせ、電源を入れる

2 FUNC.SET を押す

3 ↑/↓ でメニュー項目を選ぶ

撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります。

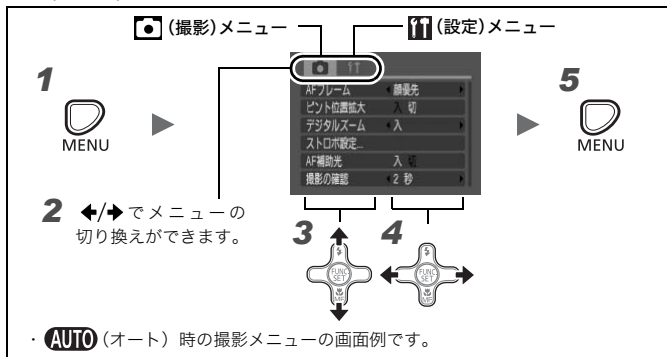
4 ←/→ で設定内容を選ぶ

- 設定項目によっては、DISP. ボタンでさらに変更できます。
- 選択後、シャッターボタンを押してすぐに撮影できます。撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

5 FUNC.SET を押す

撮影 / 再生 / 印刷 / 設定メニュー(MENU ボタン)

撮影 / 再生 / 印刷時の便利な機能を設定します。

・AUTO(オート)時の撮影メニューの画面例です。

1 MENU を押す

2 ◆/◆ でメニューを切り換える

・ズームレバーでもメニューの切り換えができます。
・表示されるメニューは、次のとおりです。
撮影時：撮影 / 設定
再生時：再生 / 印刷 / 設定

3 ▲/▼ でメニュー項目を選ぶ

・撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります。

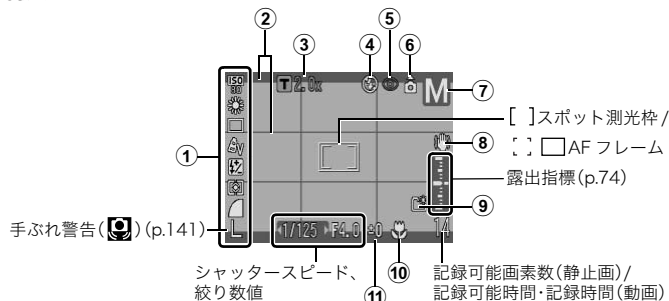
4 ◆/◆ で設定内容を選ぶ

「...」のある項目では、FUNC./SET ボタンを押して次のメニューを表示してから設定します。設定後、再度 FUNC./SET ボタンを押して設定内容を確定し、MENU ボタンを押してメニュー画面に戻ります。

5 MENU を押す

液晶モニターに表示される情報とメニュー一覧

設定可能な撮影モード 》p.190

撮影モードのとき

	表示内容	設定方法
①	ISO 感度や記録画素数など	FUNC./SETボタン(FUNC.メニュー)
②	撮影ガイド	MENU ボタン(撮影メニュー)
③	デジタルテレコン(T 1.6x/2.0x)/ デジタルズーム倍率 / セーフティズーム( )	MENU ボタン(撮影メニュー)
④	ストロボ( )	ボタン
⑤	赤目自動補正( )	MENU ボタン (撮影メニューの[ストロボ設定])
⑥	縦横自動回転( )	MENU ボタン(設定メニュー)
⑦	撮影モード	モードダイヤル
⑧	手ぶれ補正 ( )	MENU ボタン(撮影メニュー)
⑨	フォルダ作成( )	MENU ボタン(設定メニュー)
⑩	マクロ( )/	ボタン
	マニュアルフォーカス(MF)	MF ボタン
⑪	露出補正(-2…+2)	ボタン

電池残量表示について

電池残量が低下すると、液晶モニターに▭が赤色の点滅で表示されます。長時間お使いになるときは、早めに電池を交換してください。

再生モードのとき(詳細表示)

	表示内容	設定方法
⑫	印刷予約	ボタン、 MENU ボタン(印刷メニュー)
⑬	赤目補正 / リサイズの画像( ) 音声メモが付いた画像( ) プロテクト情報( )	MENU ボタン(再生メニュー)
⑭	圧縮率(静止画)・記録画素数(静止画)、動画(AVI)	FUNC./SET ボタン (FUNC. メニュー)
⑮	自動カテゴリー( )	MENU ボタン(撮影メニュー)
	マイカテゴリー( )	MENU ボタン(再生メニュー)

画像によっては、以下の情報が表示されることがあります。

♪?	WAVE タイプ以外のファイルがついています。
▲	DCF(p.177)の規格と異なる構造を持つ JPEG 画像です。
RAW	RAW タイプです。
?	記録画素数が認識できない画像です。

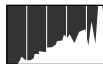
他のカメラで撮影した画像は、情報が正しく表示されないことがあります。

ヒストグラムについて

ヒストグラムは、画像の明るさを判断する目安となるグラフです。明るさの分布が左に寄るほど暗い画像になり、右に寄るほど明るい画像になります。撮影時に露出補正機能を使うと、画像の明るさを補正することができます（p.91）。

ヒストグラム例

暗い画像

普通の明るさの画像

明るい画像

撮影モード

項目	選択項目	参照先
静止画	AUTO P Tv Av M	p.13、65
動画		p.22、75

FUNC. メニュー

項目	選択項目	参照先
ISO 感度	ISO AUTO ISO HI ISO 80 ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600	p.64
ホワイトバランス	AWB	p.93
ドライブモード		p.78、58
マイカラー		p.96
ストロボ調光補正/ストロボ発光量		p.79
測光方式		p.92
圧縮率		p.61
記録画素数（静止画）	L M1 M2 M3 S （日付未設定時は ） W	p.60
記録画素数（動画）	640 640 LP 320 160	p.77

撮影メニュー

＊初期設定

項目	選択項目		参照先
AF フレーム			p.84
AUTO / … / SCN	顔優先＊ /AiAF/ 中央		
P/Tv/Av/M	中央＊ / 顔優先 /AiAF		
ピント位置拡大	入 / 切＊		p.81
デジタルズーム			p.53
（静止画）	入＊ / 切 / テレコン 1.6x/ テレコン 2.0x		
（動画）	入＊ / 切（スタンダードモード時のみ）		
ストロボ設定	発光モード	オート＊ / マニュアル	p.79
	調光補正	−2〜0＊〜+2	
	発光量	小＊ / 中 / 大	
	赤目自動補正	入 / 切＊	
	赤目緩和ランプ	入＊ / 切	
	セーフティ FE	入＊ / 切	
MF 拡大表示	入＊ / 切		p.89
セーフティ MF	入＊ / 切		p.90
AF 補助光	入＊ / 切		p.38
撮影の確認	切 / 2＊〜 10 秒 / ホールド		p.14
レビュー情報	非表示＊ / 詳細表示 / ピント確認		p.81
自動カテゴリー	入＊ / 切		p.99
撮影ガイド			p.98
（静止画）	切＊ / グリッドライン /3:2 ガイド / 両方		
（動画）	切＊ / グリッドライン		
手ぶれ補正			p.62
（静止画）	入＊ / 撮影時 / 流し撮り / 切		
（動画）	入＊ / 切		
コンバータ	なし＊ / WC-DC52 /TC-DC52A/250D		p.169
ボタン機能登録	＊ ISO WB T		p.100

再生メニュー

項目	参照先
スライドショー	p.112
マイカテゴリー	p.107
赤目補正	p.113
リサイズ	p.118
音声メモ	p.120
プロテクト	p.122
回転	p.110
全消去	p.123
送信指定	p.128
再生開始位置	p.16
再生効果	p.111

印刷メニュー

項目	内容	参照先
印刷	印刷画面を表示します。	ー
印刷する画像を指定	画像を見ながら1画像ずつ印刷指定します。	p.126
すべての画像を指定	すべての画像に対して印刷指定します。	
すべての指定を解除	画像の印刷指定をすべて解除します。	
印刷の設定	印刷スタイルを設定します。	p.124

設定メニュー

＊初期設定

項目	選択項目	内容 / 参照先
消音	入 / 切＊	［入］にすると、音が鳴りません。(画像の記録中にメモリーカードスロット / バッテリーカバーを開けたときを除く。)
音量	切/ 1 / 2＊/ 3 / 4 / 5	起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音、再生音の音量を調節します。ただし、[消音] が [入] になっていると設定できません。
起動音量		カメラ起動時の音量を調節します。
操作音量		シャッターボタン以外のボタンを操作したときの音量を調節します。
セルフタイマー音		撮影の 2 秒前から撮影するまでのセルフタイマー音の音量を調節します。
シャッター音量		シャッターボタンを全押ししたときの音量を調節します。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。
再生音量		動画や音声メモの再生時の音量を調節します。
起動画面	入＊ / 切	カメラの電源を入れたときに、起動画面を表示するかどうかを設定します。
節電		p.130
オートパワーオフ	入＊ / 切	
ディスプレイオフ	10 秒 /20 秒 /30 秒 / 1 分＊ / 2 分 / 3 分	
日付／時刻		p.11
カードの初期化		物理フォーマットも設定できます (p.131)。
画像番号	通し番号＊ / オートリセット	p.132

項目	選択項目	内容 / 参照先
フォルダ作成		p.134
新規作成	チェックをつけると設定できます。	
自動作成	切* / 毎日 / 月曜〜日曜 / 毎月 (時間も設定できます。)	
縦横自動回転	入* / 切	p.136
距離表示	m/cm * / ft/in	MFインジケーターの距離表示の単位を設定します（p.89)。
レンズ収納時間	1 分* /0 秒	レンズの収納タイミングを設定します(撮影モードから再生モードへの切り換え時)。
言語		p.12
ビデオ出力方式	NTSC * /PAL	p.138
印刷接続方式	自動* /	下記参照
初期設定		p.137

印刷接続方式について

プリンターとの接続方式を変更できます。通常、設定を変更する必要はありませんが、W(ワイド)で撮影した画像を、キヤノンコンパクトフォトプリンター SELPHY CP750/CP740/CP730/CP720/CP710/CP510 でワイドサイズ用紙全面に印刷するときは、を選択してください。この設定は電源を切っても記憶されますので、W 以外の画像サイズを印刷するときは、[自動]に戻してください(ただし、プリンター接続中は変更できません)。

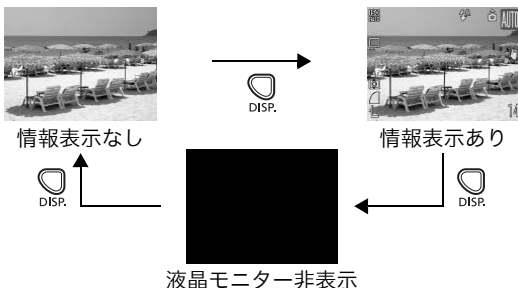
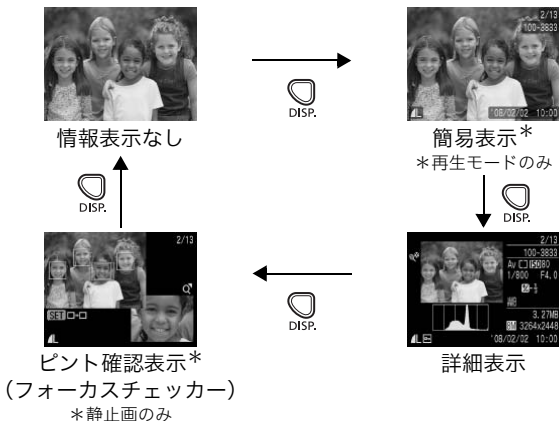
液晶モニターの表示

表示を切り換える

DISP. ボタンを押すたびに、液晶モニターの表示を切り換えることができます。表示される情報については、「液晶モニターに表示される情報とメニュー一覧」（p.44）もご覧ください。
使用している画面例は、AUTO（オート）で撮影したときのものです。

■ 撮影モードのとき

液晶モニター非表示

■ 再生モード、レックレビュー（撮影直後）のとき

ピント確認表示*
（フォーカスチェッカー）
*静止画のみ

- 拡大表示時（p.102）やインデックス再生時（p.103）は、詳細表示やピント確認表示に切り換わりません。
- 高輝度警告について
  以下のとき、撮影画像に露出オーバー部分があると、その個所が点滅表示されます。
  - 撮影直後に、液晶モニター（詳細表示）で画像を確認したとき
  - 再生モードで詳細表示にしたとき

「ナイトビュー」について

このカメラは、夕暮れや夜間など周囲が暗くて画面が見にくいとき、被写体を液晶モニターに明るく映し出す「ナイトビュー」を搭載しています。これにより、暗い場所でも構図の確認がしやすくなっています（設定を切ることはできません）。

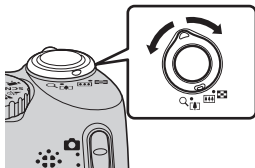
＊液晶モニターにノイズが表示されたり、表示される被写体の動きがややぎこちなくなることがありますが、記録される画像に影響はありません。なお、液晶モニターに表示される画像の明るさと、実際に撮影される画像の明るさは異なります。

撮影時によく使う機能

[W] [T] 光学ズームで撮る

35mm フィルム換算で、35 ～ 140mm（焦点距離）の範囲で画角を調節できます。

1 ズームレバーを[T]側、または[W]側に押す

- [T] **望遠**：被写体が大きくなります。
- [W] **広角**：被写体が小さくなります。

デジタルズーム / デジタルテレコンで撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

光学ズームと組み合わせて、拡大して撮影できます。
焦点距離（35mm フィルム換算）と特長は次のとおりです。

選択項目	焦点距離	特長
入	35 ～ 560mm	光学ズームとデジタルズームの組み合わせで、最大約 16 倍に拡大して撮影できます。
切	35 ～ 140mm	デジタルズームを使わずに撮影します。
テレコン 1.6x	56 ～ 224mm	デジタルズームが選択項目の倍率に固定され、焦点距離が望遠側に移動します。 同じ画角の撮影では、［入］や［切］のときに比べ、より速いシャッタースピードが利用でき、手ぶれしにくくなります。
テレコン 2.0x	70 ～ 280mm	

セーフティズームについて

このカメラは、設定された記録画素数に応じて、画質が劣化しない倍率まで一時停止することなく、光学ズームからデジタルズームに移行する「セーフティズーム」を搭載しています。画質劣化のない最大倍率で が表示され、再度 側にズームすると、さらに拡大できます（ を除く）。
設定している記録画素数によって、セーフティズームの位置が次のようになります。

セーフティズーム倍率

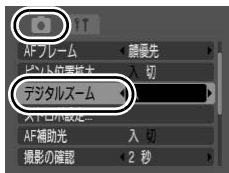
記録画素数	光学ズーム	デジタルズーム
L	4.0x	
M1		5.0x
M2		6.4x
M3		8.2x
S		16x

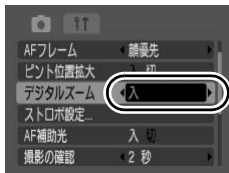
:画質劣化しない領域　:画質劣化する領域

- 液晶モニターが消えているときは、設定できません。
- （日付写し込み）、W（ワイド）のときは、設定できません。

デジタルズームで撮る

1 **[デジタルズーム]を選ぶ**

1. MENU を押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[デジタルズーム]を選ぶ

2 **設定する**

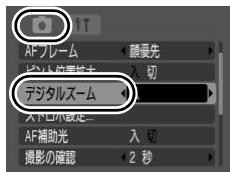
1. ◀/▶ で[入]を選ぶ
2. MENU を押す

3 **ズームレバーを[T]側に押し、撮影する**

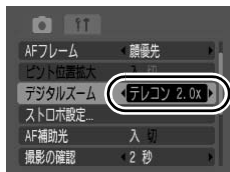
- 液晶モニターに、光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率が表示されます。
- 記録画素数によっては、画像が粗くなります。このとき、画像が粗くなる倍率は青色で表示されます。
- [W]側へ押すと、倍率が下がります。

デジタルテレコンで撮る

デジタルズームを使って、テレコンバーター（望遠撮影するためのレンズ）の機能を実現したものが、デジタルテレコンです。

1 [デジタルズーム]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [●]メニューから、▲/▼ で[デジタルズーム]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[テレコン 1.6x]または[テレコン 2.0x]を選ぶ
2. MENU を押す

3 ズームレバーで画角を調節し、撮影する

- 液晶モニターに T と倍率が表示されます。
- 記録画素数によっては、画像が粗くなります（T と倍率が青色で表示されます）。

ストロボを使って撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

1 を押す

1. ↑/↓ でストロボのモードを変更する

：[発光禁止]
：[常時発光]
：[オート]

・この画面が表示されているときに MENU ボタンを押すと、ストロボの詳細な設定ができます（p.79）。

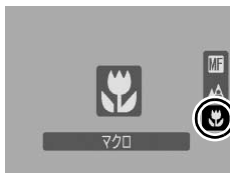
手ぶれ警告アイコン（）が表示されたときは、三脚などでカメラを固定して撮影することをおすすめします。

至近距離（マクロ）で撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

花や小さなものなどに近付いて大きく撮れます。被写体に最も近付いたときの撮影範囲（撮影距離）は、最も広角側で 59 × 44mm（レンズ先端から 5cm）です。

1 を押す

1. ↑/↓ で を選ぶ

解除のしかた：ボタンを押し、↑/↓ で（通常）を選ぶ

- マクロモードでは、液晶モニターを使って撮影してください。ファインダーを使うと、見えている範囲と撮影範囲がずれます。
- マクロモードで撮影するときにストロボを使うと、画像の周辺部が暗くなることがあります。

セルフタイマーを使って撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

撮影の開始時間や撮影枚数を設定して撮影できます。

10	10 秒：シャッターボタンを押してから、10 秒後に撮影します。 ・撮影の 2 秒前になるとセルフタイマー音が速く鳴り、セルフタイマーランプの点滅も速くなります。
2	2 秒：シャッターボタンを押してから、2 秒後に撮影します。 ・シャッターボタンを押すと同時にセルフタイマー音が速く鳴り、セルフタイマーランプが点滅し、2 秒後に撮影されます。
C	カスタム：セルフタイマーの開始時間（0 ～ 10、15、20、30 秒後）や撮影枚数（1 ～ 10 枚）を変更して撮影できます。 ・［時間］が 2 秒以上の場合、セルフタイマー音は撮影の 2 秒前から速く鳴り始めます。［枚数］で 2 枚以上を設定したときは、1 画像目の撮影時のみセルフタイマー音が鳴ります。

1 セルフタイマーモードを選ぶ

1. FUNC./SET を押す
2. ▲/▼ で ■（ドライブモード）を選び、◀/▶ で変更する
   - C が選択されているときに DISP. ボタンを押すと、撮影開始時間と撮影枚数が変更できます（p.59）。
3. FUNC./SET を押す

2 撮影する

・シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが点滅*します。

＊[ストロボ設定] の [赤目緩和ランプ] を [入] に設定 (p.72) して、ストロボが発光する場合は、撮影の 2 秒前から点灯します。

解除のしかた：手順 1 で□を選ぶ

撮影開始時間と撮影枚数を変更する(Ⓒ)

1 Ⓒを選ぶ

1. (FUNC./SET)を押す
2. ▲/▼ で□(ドライブモード)を選び、◀/▶ でⒸを選ぶ
3. (DISP.)を押す

2 設定する

1. ▲/▼ で[時間]または[枚数]を選び、◀/▶ で設定内容を変更する
2. (DISP.)を押す
3. (FUNC./SET)を押す

［枚数］が 2 枚以上の場合、次のようになります。

- 1 画像目の撮影で、露出やホワイトバランスが固定されます。
- ストロボが発光するときは、撮影間隔が長くなります。
- カメラ内部のメモリーがいっぱいになると、撮影間隔が長くなることがあります。
- カードの容量がいっぱいになると自動的に撮影を終了します。

記録画素数を変更する（静止画）

設定可能な撮影モード 》p.190

1 記録画素数を選ぶ

1. FUNC. SET を押す
2. ▲/▼ で L を選び、◀/▶ で記録画素数を変更する
3. FUNC. SET を押す

記録画素数を選ぶときの目安

記録画素数				用途
L ラージ	8M	3264 × 2448	大きい	A3 サイズ程度に印刷するとき
M1 ミドル 1	5M	2592 × 1944	↑	A4 サイズ程度に印刷するとき
M2 ミドル 2	3M	2048 × 1536		A5 サイズ程度に印刷するとき
M3 ミドル 3	2M	1600 × 1200		L 判やはがきサイズに印刷するとき
S スモール	0.3M	640 × 480	↓ 小さい	電子メールで画像を送るとき、またはより多くの画像を撮影するとき
日付写し込み	2M	1600 × 1200	画像に日付を写しこんで撮影するとき（p.20）、また、L 判やはがきサイズに印刷するとき（縦横比約 3：2 の印刷範囲を確認しながら撮影できます。）	
W ワイド	3264 × 1832		ワイドサイズの用紙に印刷するとき（縦横比 16：9 の画像を確認でき、記録されない領域は、液晶モニター上に黒帯が表示されます。）	

：おおよその記録画素数を示しています。「M」は、Megapixel（メガピクセル）の略です。

- カードの種類と記録可能画像数 / 時間（目安）（p.181）
- 1 画像の容量（目安）（p.182）

圧縮率を変更する(静止画)

設定可能な撮影モード 》p.190

1 圧縮率を選ぶ

1. FUNC./SET を押す
2. ▲/▼ で ◢ を選び、◀/▶ で圧縮率を変更する
3. FUNC./SET を押す

圧縮率を選ぶときの目安

圧縮率		用途
スーパーファイン	きれい	より良い画質で撮影するとき
ファイン	↕	通常の撮影をするとき
ノーマル	普通	より多くの画像を撮影するとき

- カードの種類と記録可能画像数 / 時間（目安）（p.181）
- 1 画像の容量（目安）（p.182）

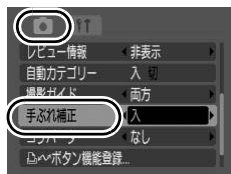
手ぶれ補正を設定する

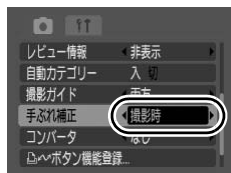
設定可能な撮影モード 》p.190

レンズシフト式手ぶれ補正を使うと、遠くの被写体を大きくして撮影したいときや、薄暗い場所でストロボを発光せずに撮影するときでも手ぶれを抑えた撮影ができます。

入	常時、手ぶれを補正します。液晶モニターで手ぶれ補正の効果を確認できるため、構図を決めたり、ピント合わせがしやすくなります。
撮影時	シャッターがきれる瞬間のみ手ぶれを補正します。[入] に設定した場合に被写体によっては感じることのある、液晶モニター上の不自然な揺れを気にせずに撮影できます。
流し撮り	カメラが上下方向にぶれたときにだけ、手ぶれを補正します。横方向に動いているものを、カメラで追いかけて撮影するときにおすすめします。

1 [手ぶれ補正]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[手ぶれ補正]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で手ぶれ補正の種類を選ぶ
2. MENU を押す

液晶モニターのアイコン表示

［切］	［入］	［撮影時］	［流し撮り］	撮影メニューの［コンバータ］の設定	参照先
				なし	—
				WC-DC52、TC-DC52A、250D	p.169

- シャッタースピードが遅くなる撮影では、手ぶれを補正しきれないことがあります。三脚を使って撮影してください。
- 手ぶれが大きすぎると補正しきれないことがあります。
- ［流し撮り］は、カメラを横に構えてお使いください（カメラを縦に構えると補正を行いません）。
- ［撮影時］または［流し撮り］に設定後、動画を撮影する場合は［入］に自動で変更されます。

ISO 感度を変更する

設定可能な撮影モード 》p.190

暗いところで手ぶれを抑えたり、被写体ぶれを抑えるためにシャッタースピードを速くしたいとき、あるいはストロボをオフにして撮影したいときには、ISO 感度を上げます。

1 ISO 感度を変更する

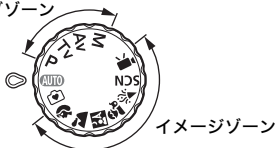
1. (FUNC. SET) を押す
2. ▲/▼ で ISO AUTO を選び、◀/▶ で変更する

・ISO AUTO（AUTO）や ISO HI（高感度オート）を選ぶと、撮影時の明るさに応じて最適な感度に設定します。暗いところなどでは自動的に感度が上がるためシャッタースピードが速めになり、手ぶれが低減されます。

・画質を優先したいときは ISO AUTO を選びます。
・ISO HI を選ぶと、カメラが動きも検知して最適な感度を設定します。撮影シーンによってはオートに比べ感度が高めに設定され*、被写体ぶれも低減されます。
　* ISO AUTO に比べて撮影画像にノイズが増えることがあります。

- 高い ISO 感度で撮影する場合には、カメラが自動的にノイズを低減する処理を行います。
- ISO AUTO または ISO HI に設定した場合、シャッターボタンを半押ししたときや再生情報には、カメラが自動的に設定した ISO 感度が表示されます。

モードダイヤルを使った撮影

モードダイヤル

カメラまかせで撮影できます。

AUTO：オート（p.13）

：らくらく（p.15）

■イメージゾーン

撮影状況に応じた撮影モードを選択すると、最適な撮影ができるように、カメラが自動的に設定を行います。

：ポートレート　　：風景

：ナイトスナップ　　：キッズ&ペット

：パーティー / 室内

SCN：スペシャルシーン（p.66）

：夜景　　：夕焼け

：新緑 / 紅葉　　：スノー

：ビーチ　　：打上げ花火

：水族館

：動画（p.22、75）

■クリエイティブゾーン

シャッタースピードや絞り数値を選択するなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P　：プログラム AE で撮る（p.69）

Tv　：シャッタースピードを決めて撮る（p.70）

Av　：絞りを決めて撮る（p.72）

M　：自由にシャッタースピード / 絞りを決めて撮る（p.74）

撮影シーンに合わせて撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

撮影状況に応じた撮影モードを選択すると、最適な撮影ができるように、カメラが自動的に設定を行います。

、、、、またはSCN（スペシャルシーン）

1 **モードダイヤルを、、、、またはSCNに合わせる**

SCNの場合

1. ◆/◆ でシーンモードを選ぶ

ポートレート

人物をやわらかい調子で撮影できます。

風景

近景から遠景まで奥行きのあるシーンの撮影に最適です。

ナイトスナップ

夕暮れや夜景をバックに人物をスナップ撮影したいとき、カメラをしっかり構えれば三脚がなくても手ぶれを少なく撮影できます。

キッズ&ペット

よく動きまわる子供やペットを、シャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

パーティー / 室内

蛍光灯や電球のもとで、手ぶれをおさえて被写体に忠実な色味で撮影できます。

夜景

夕暮れや夜景をバックにした人物を撮影できます。人物にストロボ光をあて、遅いシャッタースピードで撮影するため、人物、背景ともきれいに撮影できます。

夕焼け

夕焼けを色鮮やかに撮影できます。

新緑 / 紅葉

新緑、紅葉、桜など、木々や葉を色鮮やかに撮影できます。

スノー

雪景色をバックにしても人物が暗くならず、青みも残らないで撮影できます。

ビーチ

太陽光の反射の強い海面や砂浜でも、人物などが暗くならずに撮影できます。

打上げ花火

打上げ花火を最適な露出で鮮やかに撮影できます。

水族館

屋内の水槽内の魚などを撮影するのに適した感度、ホワイトバランス、色味に設定されます。

- 、では、シャッタースピードが遅くなります。手ぶれを防ぐために必ず三脚をお使いください。
- 、、、では、撮影シーンによっては、ISO 感度が上がり、画像にノイズが増えることがあります。

Pプログラム AE で撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り数値をカメラが自動的に設定します。ISO 感度、露出補正、ホワイトバランスなどの設定ができます。

1 **モードダイヤルをPに合わせる**

2 **撮影する**

- シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値が赤字で表示されます。次の方法で撮影すると、適正露出が得られ、白字で表示されることがあります。
  - ストロボを使用する（p.57）
  - ISO 感度を変更する（p.64）
  - 測光方式を変更する（p.92）

Tv シャッタースピードを決めて撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

シャッタースピードを選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。
シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッタースピードを遅くすると流動感を表現したり、暗いところでもストロボを発光せずに撮影できます。

1 モードダイヤルをTvに合わせる

2 シャッタースピードを設定する

1. ◆/◆ ボタンで変更する

3 撮影する

・シャッターボタンを半押ししたときに絞り数値が赤字で表示される場合は、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過多）です。白字で表示されるまで、◆/◆ ボタンでシャッタースピードを調節してください。

シャッタースピードが遅くなると、CCD の特性により撮影した画像にノイズが増えますが、シャッタースピードが 1.3 秒以上のときは、このノイズを除去する処理を行い、高画質が得られます（ただし、次の撮影までにしばらく時間がかかります）。

- ズームによって、絞り数値とシャッタースピードは次のように変わります。

	絞り数値	シャッタースピード（秒）
ワイド端	F2.6 ～ 3.5	15 ～ 1/1250
	F4.0 ～ 8.0	15 ～ 1/2000
テレ端	F5.5 ～ 7.1	15 ～ 1/1250
	F8.0	15 ～ 1/2000

- ストロボ発光時に有効なシャッタースピードは、最高で 1/500 秒です。1/500 秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、自動的に 1/500 秒に再設定して撮影します。

シャッタースピードの表示

- 以下のシャッタースピードを設定できます。1/160 は 1/160 秒を表します。また、0"3は0.3秒を、2"は2秒を表しています。

15" 13" 10" 8" 6" 5" 4" 3"2 2"5 2" 1"6 1"3 1" 0"8 0"6 0"5 0"4 0"3 1/4 1/5 1/6 1/8 1/10 1/13 1/15 1/20 1/25 1/30 1/40 1/50 1/60 1/80 1/100 1/125 1/160 1/200 1/250 1/320 1/400 1/500 1/640 1/800 1/1000 1/1250 1/1600 1/2000

Av 絞りを決めて撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調節するものです。絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出になるシャッタースピードを自動的に設定します。
絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。
絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。数値を大きくするほど、鮮明に写る範囲が広くなります。

1 モードダイヤルをAvに合わせる

2 絞り数値を設定する

1. ◆/◆ボタンで変更する

3 撮影する

・シャッターボタンを半押ししたときにシャッタースピードが赤字で表示される場合は、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過多）です。白字で表示されるまで、◆/◆ボタンで絞り数値を調節してください。

ズーム位置によっては選べない絞り数値があります（p.71）。

- ストロボ同調シャッタースピードは、最高で 1/500 秒です。したがって、あらかじめ絞り数値を設定していても、ストロボ同調シャッタースピードに応じて絞り数値が自動的に変更されることがあります。

絞り数値の表示

- 表示された数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります

F2.6 F2.8 F3.2 F3.5 F4.0 F4.5 F5.0 F5.5 F5.6 F6.3 F7.1 F8.0

M 自由にシャッタースピード / 絞りを決めて撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

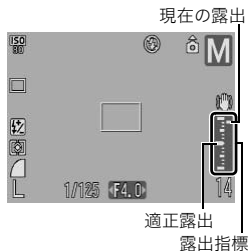
シャッタースピードや絞り数値を自分で決定し、撮影します。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 シャッタースピードと絞り数値を設定する

1. を押して、シャッタースピードまたは絞り数値を選ぶ
2. ◆/◆ ボタンで変更する

3 撮影する

・露出指標の右側に現在の露出が表示され、適正露出からのずれを確認できます（このずれが± 2 段を超えると、赤で表示されます）。
・シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに適正露出*からのずれが数字で表示されます。このずれが
±2段を超えると、液晶モニターに、「－2」または「＋2」と赤字で表示されます。

＊設定されている測光方式をもとに測光を行って、適正露出を算出します。

- 数値設定後にズームを調節すると、ズーム位置に応じてシャッタースピードや絞り数値が変更される場合があります（p.71）。
- 液晶モニターは、設定した絞り数値とシャッタースピードに応じた明るさで表示されます。速いシャッタースピードを設定した場合や、被写体が暗い場合、ストロボを（常時発光）にすると、常に明るく表示されます。

動画を撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

動画撮影には、次のモードがあります。
記録可能時間は、お使いのカードによって異なります（p.182）。

スタンダード
記録画素数を選び、カードの容量がいっぱいになるまで撮影できます＊1。また、撮影中にデジタルズームが使えます（p.53）。
・1 回の最大記録容量：4GB ＊2

ライト
記録画素数が小さく容量が少ないため、メールに添付したり、カードの容量が少ないときなどに使うと便利です。
・1 回の最長記録時間：3 分

＊1 超高速のカード使用時（推奨カード：SDC-512MSH）
＊2 記録容量が 4GB に達していなくても、撮影時間が 1 時間に達した時点で記録を停止します。カードの容量やデータ書き込み速度により、4GB または 1 時間に満たなくても記録を停止する場合があります。

1 モードダイヤルを に合わせる

2 撮影モードを選ぶ

1. ←/→ ボタンで選ぶ

モードダイヤルを使った撮影

3 撮影する

・シャッターボタンを半押しすると、露出、フォーカス、ホワイトバランスを自動設定します。
・シャッターボタンを全押しすると撮影が開始され、同時に音声も記録されます。
・撮影中は､液晶モニターに記録時間と[●録画]が表示されます。
・再度シャッターボタンを全押しすると、撮影が終了します。なお、以下の場合は自動的に撮影が終了します。
- 最長記録時間や最大記録容量を超えたとき
- カメラ内部のメモリーやカードの容量がいっぱいになったとき

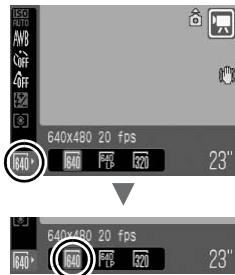
- 動画を撮影するときは､このカメラで初期化したカードをお使いください（p.131）。なお、付属のカードはそのままお使いになれます。
- 撮影中は、次のことに注意してください。
  - マイク（p.38）に触れないでください。
  - シャッターボタン以外のボタンを押さないでください。ボタンを押す音も記録されてしまいます。
  - 撮影状況に応じて、カメラが自動的に適切な露出、ホワイトバランスを調整します。カメラが自動的に露出を調整する音が、一緒に記録される場合もあります。
- フォーカス、光学ズームは、撮影を開始したとき（最初のフレーム）の設定値に固定されます。

- ズーム操作は撮影前に行ってください。液晶モニターに、光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率が表示されます｡倍率が青色で表示されるときは､画像が粗くなります｡
- のみ、撮影中にもデジタルズームをお使いになれます。
- 動画（タイプ：AVI、圧縮方法：Motion JPEG）をパソコンで再生するには、QuickTime が必要です（Windows 2000のみ)。

記録画素数 / フレームレートを変更する

(スタンダード)のときは、記録画素数を変更できます
(フレームレートは記録画素数に応じて設定されます)。

1 記録画素数を選ぶ

1. FUNC.SET を押す
2. ▲/▼ で 640 を選び、◀/▶ で変更する
3. FUNC.SET を押す

記録画素数 / フレームレートについて

フレームレートは、1 秒間に撮影 / 再生するフレーム数を表します。フレームレートが高いほど滑らかな動きになります。

スタンダード	640 *1	640 × 480 画素、20 フレーム / 秒
	640 LP *2	640 × 480 画素、20 フレーム / 秒 LP
	320	320 × 240 画素、30 フレーム / 秒
ライト	160	160 × 120 画素、15 フレーム / 秒

*1 初期設定
*2 画質より撮影時間を優先したい場合は、640 LP を選んでください。同じファイル容量で約 2 倍の時間撮影ができます。

- カードの種類と記録可能画像数 / 時間（目安）（p.182）
- 1 画像の容量（目安）（p.182）

いろいろな撮影

連続して撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影できます。
なお、推奨カード*をお使いの場合は、一定の撮影間隔でカードの容量がいっぱいになるまで連続して撮影（スムーズ連写）できます(p.181)。

*推奨カード：
撮影の直前に物理フォーマット（p.131）を行った超高速の SDC-512MSH（別売）
- （ラージ・スーパーファイン）モード時を除く
- 当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。
- 連続撮影が中断したときに、カードの容量が余る場合があります。

1 を選ぶ

1. (FUNC. SET) を選ぶ
2. ↑/↓ で（ドライブモード）を選び、←/→ でを選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

2 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間は、撮影が続きます。シャッターボタンを放すと、撮影が終了します。

解除のしかた：手順 1 でを選ぶ

- カメラ内部のメモリーがいっぱいになると、撮影間隔が長くなります。
- 内蔵ストロボが発光する場合には、ストロボの充電時間が必要なため、撮影間隔が長くなります。

ストロボの詳細な設定をして撮る

設定可能な撮影モード ≫ p.190

撮影状況に合わせて、ストロボを詳細に設定できます。

ストロボの設定項目一覧

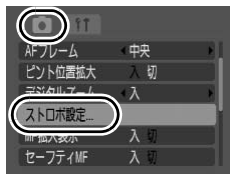
項目	内容	備考
発光モード	撮影モードが**Tv**または**Av**のとき、[マニュアル] にすると、発光量を設定できます。	ー
調光補正	標準調光を中心にー 2 ～+ 2 の範囲で 1/3 段ずつ変更できます。カメラの露出補正と併用することにより、背景の露出も補正したストロボ撮影ができます。	撮影モードが**Tv**または**Av**のときは、あらかじめ［発光モード］を［オート］に設定してください。
発光量	ストロボの発光量をフル発光まで 3 段階で制御して撮影できます。	撮影モードが**Tv**または**Av**のときは、あらかじめ [発光モード] を [マニュアル］に設定してください。
赤目自動補正	人物の目が赤く写ったときに、自動で補正します。	ー
赤目緩和ランプ	ストロボの光が反射して目が赤く写るのを軽減します。	［入］にすると、ストロボの発光前に赤目緩和ランプが橙色に点灯します。
セーフティ FE	ストロボ発光時に、露出オーバーで適正露出が得られない場合、自動的に絞り数値やシャッタースピードがシフトして白とびを軽減し、適正露出で撮影できます。	撮影モードが**Tv**または**Av**のときは、あらかじめ［発光モード］を［オート］に設定してください。

赤目自動補正について

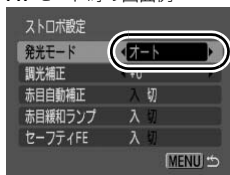
- ［赤目自動補正］を［入］にすると、補正後の画像のみカードに記録されます。
- 化粧などにより目の周りが赤いときは、赤目以外の部分を補正する場合があります。このようなときは［赤目自動補正］を［切］にして撮影してください。
- 画像によっては赤目が自動的に検出されなかったり、検出されても完全には補正されないなど、思いどおりに補正されない場合があります。このようなときは、再生メニューの［赤目補正］で補正することができます（p.113）。

[ストロボ設定]メニューの表示と設定のしかた

1 [ストロボ設定]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [●]メニューから、▲/▼ で[ストロボ設定]を選ぶ
3. FUNC/SET を押す

2 設定する

1. ▲/▼ で項目を選ぶ
2. ◀/▶ で設定する
3. MENU を押す

Av モード時の画面例

3 MENU を押す

- ［ストロボ設定］メニューは、⚡を押してストロボ画面が表示されているときに MENU ボタンを押しても表示できます。
- ［調光補正］と［発光量］は、FUNC. メニューからも設定できます（p.46）。

ピントや人物の表情を確認する

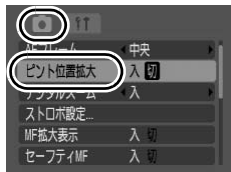
設定可能な撮影モード 》p.190

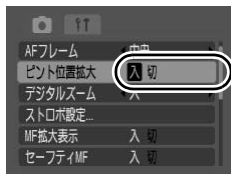
ピント位置を拡大表示して確認しながら撮影したり、撮影直後にピント位置を確認できます。

ピント位置を拡大表示して撮る

AF フレームモードが［顔優先］、［中央］のとき、AF フレームを中心に拡大表示して、ピントを確認しながら撮影することができます。人物の表情を捉えたいときは AF フレームモードを［顔優先］に、マクロモードで撮影するときは［中央］にして、ピントを確認しながら撮影することをおすすめします。

1 [ピント位置拡大]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で[ピント位置拡大]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[入]を選ぶ
2. MENU を押す

3 シャッターボタンを半押しする

・AF フレームモード（p.84）の設定によって、次のように拡大表示されます。
［顔優先］のとき ：カメラが主被写体と判断した顔が拡大される
［中央］のとき ：液晶モニターの中央が拡大される

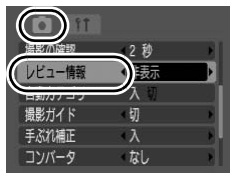
4 そのままシャッターボタンを全押しして撮影する

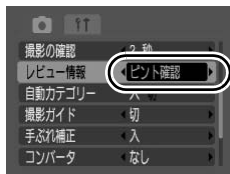
以下のような場合は、拡大表示を行いません。
- [顔優先] 設定時、顔が検出されなかった場合や、画面全体に対して顔が大きすぎるとき
- ピントが合わないとき
- デジタルズームを使用しているとき
- 液晶モニターが非表示のとき
- テレビに表示しているとき

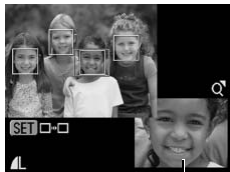
撮影直後にピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）

撮影した画像のピントが確認できます。また、AF フレームモードを［顔優先］（p.84）で撮影したときは、顔の大きさに合わせた枠が表示されますので、顔の表情や目を閉じていないかなども、かんたんに確認できます。
なお、あらかじめ[●]メニューの[撮影の確認]で、[ホールド]に設定することをおすすめします。

1 [レビュー情報]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [●] メニューから、▲/▼ で[レビュー情報]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[ピント確認]を選ぶ
2. MENU を押す

3 撮影する

・撮影した画像が表示されます。

橙色の枠内表示

・枠が次のとおりに表示されます。

枠の色	内容
橙	右下に表示された画像の範囲を表示します。
白	ピントの合った位置に表示されます。

・橙色の枠は、表示倍率の変更、表示位置の移動、表示フレームの切り換えができます（p.105）。

解除のしかた：シャッターボタンを半押しする

- 画像の表示中に、🗑ボタンを押すと画像を消去できます（p.17）。
- 再生モードでも、ピントの確認ができます（p.104）。

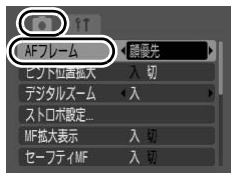
AF フレームモードを選択する

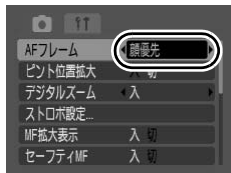
設定可能な撮影モード 》p.190

オートフォーカス枠(AFフレーム)は、ピントを合わせるための枠です。

┌ ┐ └ ┘	顔優先	カメラが自動的に顔を検出し、顔にピント、露出*1とホワイトバランス*2を合わせた撮影ができます。またストロボ発光時は、顔の明るさが適正になるように調光します。顔が検出されない場合は［AiAF］で撮影されます。 *1 評価測光時のみ（p.92） *2 AWB 時のみ（p.93）
▦	AiAF	撮影状況に応じて、9 つの AF フレームの中からカメラが自動的に AF フレームを選択してピントを合わせます。
□	中央	AFフレームが中央に固定されます。画面中央の被写体にピントを合わせたいときにおすすめです。

1 [AF フレーム]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [●]メニューから、▲/▼ で[AF フレーム]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[顔優先]、[AiAF]、[中央]のいずれかを選ぶ
2. MENU を押す

- 液晶モニター非表示時は、［顔優先］は設定できません。
- シャッターボタンを半押ししたときのAFフレームの表示は、次のとおりです。
  - 緑色　：ピントが合っているとき
  - 黄色　：ピントが合いにくいとき（［中央］設定時）
  - 非表示：ピントが合いにくいとき（［顔優先］、［AiAF］設定時）

顔優先について

- カメラが顔と認識した位置にフレームが最大 3 つまで表示されます。このとき、カメラが主被写体と判断した箇所に白色のフレーム、その他の箇所にグレーのフレームが表示されます。シャッターボタンを半押しし、ピントがあった場合は最大 9 つの緑色の AF フレームが表示されます。
- 白色のフレームが表示されず、グレーのフレームのみが表示された場合、または顔が検出されなかった場合、撮影時には［顔優先］ではなく［AiAF］で撮影されます。
- 人物以外の被写体を､カメラが誤って顔と検知することがあります。
- 顔が検出されない主な例は、次のとおりです。
  - 顔が画面全体に対して極端に小さい、大きい、暗いまたは明るい
  - 顔が横や斜めを向いていたり、顔の一部が隠れている

ピントを合わせたい人物を選んで撮る（顔セレクト）

設定可能な撮影モード 》p.190

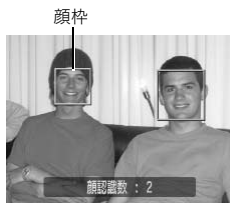
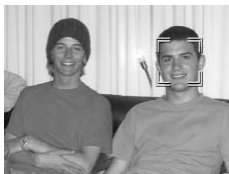
特定の人物の顔を選んでピントを合わせ、一定の範囲で追尾することができます。

顔セレクト機能を使うには、あらかじめ以下の設定をする必要があります。

- AF フレームモードを［顔優先］にする（p.84）
- ボタンに（顔セレクト）の機能を登録する（p.100）

1 ピントを合わせたい顔を選ぶ

1. 顔を認識している状態でを押す
   - 顔セレクトモードになり、主被写体に顔枠（⌜ ⌝）が緑色で表示されます。この枠は被写体が動いても、一定の範囲で追尾します。

2. ピントを合わせたい人物を選ぶ
   - 顔が複数検出されたときは、◆/◆ ボタンで、顔枠を他の被写体に移動できます。
   - 顔が検出されないときは、顔枠が表示されません。
   - DISP. ボタンを押すと、ボタンを押している間、カメラが検出した顔枠（最大 35 個）を表示します（緑色：主被写体の顔、白色：検出した顔）。
   - ▲ ボタンを押すと、顔セレクトモードが解除されます。

3. もう一度、⎙∾を押す
   ・顔セレクトモードを終了し、主被写体の顔枠（⌜ ⌝）が白色に変わります（一定の範囲で顔を追尾し続けます）。

2 シャッターボタンを半押しする

・主被写体の顔枠（⌜ ⌝）が□に変わります。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

以下の場合は顔セレクトを解除します。
- 電源を入れ直したとき
- デジタルズームを使用しているとき
- MENUボタンを押して、メニューを表示したとき
- 顔セレクトモードで選んだ顔が追尾できなくなってから数秒程度たったとき
- 液晶モニターが非表示のとき

ピントが合いにくい被写体を撮る(フォーカスロック、マニュアルフォーカス、セーフティMF)

設定可能な撮影モード 》p.190

次のような被写体は、ピントが合わないことがあります。
・コントラストが極端に低い被写体
・近いものと遠いものが混在する被写体
・画像中央部が極端に明るい被写体
・高速で移動する被写体
・ガラス越しの被写体

フォーカスロックで撮る

1 ピントを合わせたい被写体と同じ距離の別の被写体を、ファインダーの中央または液晶モニターの AF フレームに収める

2 シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決め直す

3 シャッターボタンを全押しする

- ではAF フレームは表示されません。
- 液晶モニターを使って、フォーカスロック撮影をする場合、[AF フレーム]を[中央](p.84)にすると、中央の AF フレーム 1 点だけが有効になるので、撮影しやすくなります。
- ガラス越しの被写体を撮影するときは、できるだけガラスに近寄り、反射による写り込みのない状態で撮影してください。

マニュアルフォーカスで撮る

手動でピントを合わせて撮影します。

1 液晶モニターをつける

2 MF ボタンを押す

1. ▲/▼ で MF を選ぶ
- ［●］メニューの［MF 拡大表示］を［入］に設定すると、AF フレームを中心に画像が拡大表示*されます（p.47）。

＊ 動画、デジタルズームを使用しているときや、テレビに表示しているときは、拡大表示されません。

- 撮影モードによって、±ボタンを押すと、以下のように設定できる項目が切り換わります。

、、、、、P	露出補正 / MF
SCN	SCN モード / 露出補正 / MF
動画	動画モード / MF
Tv	シャッタースピード / 露出補正 / MF
Av	絞り数値 / 露出補正 / MF
M	シャッタースピード / 絞り数値 / MF

3 ◀/▶ を押して、ピントを合わせる

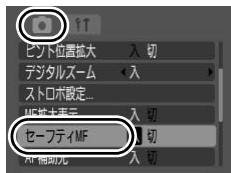
- MF インジケーターはピント位置の目安です。表示される数値を目安に撮影してください。

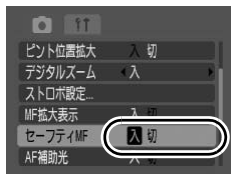
解除のしかた：MF ボタンを押し、▲/▼ で（通常）を選ぶ

マニュアルフォーカスとAFを組み合わせて撮る(セーフティMF)

初めにマニュアルフォーカスでおおよそのピントを合わせ、その位置の近傍を自動的にスキャンして、正確なフォーカス位置を検出できます。

1 [セーフティMF]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [●] メニューから、▲/▼ で[セーフティMF]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で[入]を選ぶ
2. MENU を押す

3 マニュアルフォーカスでピントを合わせてから、シャッターボタンを半押しする

・最もピントの合う位置にフォーカスが微調整されます。

4 そのままシャッターボタンを全押しして撮影する

露出を補正する

設定可能な撮影モード 》 p.190

逆光や背景が明るい場所での撮影で、被写体が暗くなってしまう場合はプラス側に、夜景や背景が暗い場所での撮影で、被写体が明るくなってしまう場合にはマイナス側に露出を補正します。

1 液晶モニターをつける

2 を押して、露出補正バーを表示する

3 補正する

1. ←/→ で露出を補正する
2. を押す

・撮影モードによって、ボタンを押すたびに、以下のように設定できる項目が切り換わります。

SCN	SCN モード / 露出補正
Tv	シャッタースピード / 露出補正
Av	絞り数値 / 露出補正

解除のしかた：手順 3 で補正値を「0」に戻す

測光方式を切り換える

設定可能な撮影モード 》p.190

評価測光		逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。画面内を多分割して測光します。画面内の被写体の位置、明るさ、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出で撮影します。
中央部重点平均測光		画面中央部の被写体に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光します。
スポット測光		画面中央の被写体に露出を合わせます。被写体と周囲の明るさの差が大きいときに使います。

1 測光方式を変更する

1. FUNC. SET を押す
2. ▲/▼ で 評価測光 を選び、◀/▶ で変更する
3. FUNC. SET を押す

色合いを調整する(ホワイトバランス)

設定可能な撮影モード 》p.190

通常は、AWB（オート）で最適なホワイトバランスが自動設定されます。AWBで自然な色合いにならないときは、ホワイトバランスを変更し、撮影時の光源に合った適正な色で撮影します。

AWB	オート	自動設定
	太陽光	晴天の屋外
	くもり	曇天や日陰、薄暮
	電球	電球、電球色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	蛍光灯 H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	マニュアル	白い紙や布など、基準としたい白色をカメラに記憶させ、その撮影状況下で最適なホワイトバランスとして設定します。

1 ホワイトバランスを選ぶ

1. FUNC. SET を押す
2. ▲/▼ で AWB を選び、◀/▶ で変更する
3. FUNC. SET を押す

マイカラーが Se BW の場合、ホワイトバランスは設定できません。

マニュアルホワイトバランスの使いかた

次のような場合、AWB（オート）では、ホワイトバランスが調整できないことがありますので、（マニュアル）で白データを取り込んでから撮影してください。

・単一な色の被写体（空、海、森など）を撮影するとき
・水銀灯などの特殊な光源で撮影するとき
・至近距離（マクロ）で撮影するとき

1 を選ぶ

1. FUNC. SET を押す
2. ▲/▼ で AWB を選び、◀/▶ で を選ぶ

2 白い紙や布にカメラを向け、DISP. を押す

・液晶モニターの画面いっぱいに白い紙や布を表示させてください。ただし、デジタルズーム使用時や T が表示されているときは、中央の枠は表示されません。
・光学ファインダーを使っても白データの取り込みができます。

3 FUNC. SET を押す

- 撮影モードを**P**にし、露出補正を± 0 にすることをおすすめします。適正露出でない場合（真っ黒や真っ白）は、白データを正しく取り込めないことがあります。
- 白データを取り込んだときと同じ条件で撮影してください。条件が異なると、最適なホワイトバランスが設定できないことがあります。特に以下の条件は変更しないでください。
  - ISO 感度
  - ストロボ：[ストロボ発光] または [ストロボ発光禁止] にしておくことをおすすめします。[オート] で白データ取り込みの際にストロボが発光した場合は、撮影時もストロボを発光させてください。
- 取り込んだ白データは、電源を切っても記憶されます。

マイカラーで撮る

設定可能な撮影モード 》p.190

画像の印象を変えて撮影できます。

アイコン	モード	説明
OFF	マイカラー切	通常設定
V	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした色合いにします。
N	すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした色合いにします。
Se	セピア	セピア色にします。
BW	白黒	白黒にします。
C	カスタムカラー	コントラスト / シャープネス / 色の濃さを調節して撮影します。

V N Se BW のとき

1 マイカラーを設定する

1. FUNC./SET を押す
2. ▲/▼ で OFF を選び、◀/▶ で変更する
3. FUNC./SET を押す

のとき（カスタムカラーモードを設定する）

1 **を選ぶ**

1. を押す
2. ↑/↓ で を選び、←/→ で を選ぶ

2 **調節する**

1. DISP. を押す
2. ↑/↓ で[コントラスト]、[シャープネス]、[色の濃さ]のいずれかを選ぶ
3. ←/→ で調節する
   - 調節した結果が表示されます。
   - DISP. ボタンを押すと、マイカラーモードを選ぶ画面に戻ります。
4. を押す
   - 撮影画面に戻り、撮影します。

項目を選ぶ　調節する

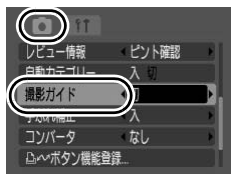
撮影ガイドを設定する

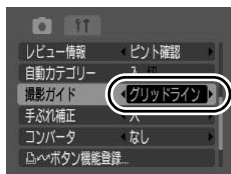
設定可能な撮影モード 》p.190

被写体の水平や垂直、縦横比 3：2 の印刷範囲を液晶モニターで確認しながら撮影できます。

切	ー
グリッドライン	画面を 9 分割したラインを表示します。被写体の水平や垂直を確認できます。
3：2 ガイド	L 判やはがきサイズで印刷できる範囲（縦横比 3：2）を確認できます＊。印刷されない領域はグレーになります。 ＊記録される画像の縦横比は、通常画面と同じ 4：3 となります。
両方	グリッドラインと 3：2 ガイドの両方を同時に表示します。

1 [撮影ガイド]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [●] メニューから、▲/▼ で[撮影ガイド]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で撮影ガイドの種類を選ぶ
2. MENU を押す

- 、W のときはグリッドラインのみ設定できます。
- グリッドラインや 3：2 ガイドは画像には記録されません。

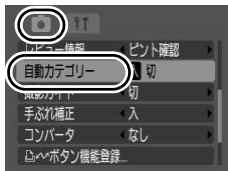
画像を自動で分類する（自動カテゴリー）

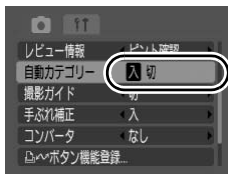
設定可能な撮影モード 》p.190

自動カテゴリーを［入］にすると、撮影時、画像はあらかじめ用意されたカテゴリーに分類されます。

	人物	、、で撮影した画像、または AF フレームで［顔優先］を選択し、顔が検出された画像
	風景	、、、で撮影した画像
	イベント	、、、、で撮影した画像

1 ［自動カテゴリー］を選ぶ

1. MENU を押す
2. ［ ］メニューから、▲/▼ で［自動カテゴリー］を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で［入］または［切］を選ぶ
2. MENU を押す

動画は、自動で分類されませんが、マイカテゴリー（p.107）でカテゴリー分けができます。

ボタンに機能を登録する

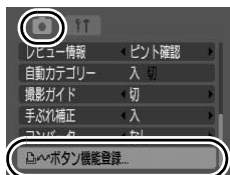
設定可能な撮影モード 》p.190

撮影時によく使う機能を、ボタンに1つだけ登録できます。

項目		参照先
	無効	–
	顔セレクト	p.84
	ISO 感度	p.64
	ホワイトバランス	p.93
	マニュアル WB (ホワイトバランス)	p.94

項目		参照先
	赤目自動補正	p.79
	デジタルテレコン	p.56
	撮影ガイド	p.98
	ディスプレイオフ	p.49

1 [ボタン機能登録]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [ ] メニューから、▲/▼ で [ボタン機能登録]を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

2 設定する

1. ▲/▼ または ◀/▶ で登録したい機能を選ぶ
2. FUNC. SET を押す

・アイコンの右下に⊘が表示されていても、機能の登録はできますが、撮影モードまたは設定によっては、ボタンを押してもお使いになれません。

・MENU ボタンを押すと、設定を終了します。

解除のしかた：手順2で を選ぶ

ボタンを使う

1 を押す

- ・、と は、ボタンを押すたびに、設定が切り換わります。
- ・、と は設定画面が表示されます。
- ・は、ボタンを押すたびに白データを取り込みます。なお、このとき枠は表示されないので、白い紙や布を液晶モニターの中央になるように置いてから、ボタンを押してください。一度この機能を使うと、ホワイトバランスの設定は に変更されます。
- ・は、ボタンを押すと液晶モニターの表示が消えます。電源スイッチ以外のボタンを押すか、カメラの縦・横の向きを変えると復帰します。

再生 / 消去する

「静止画を見る」(p.16)もご確認ください。

拡大して見る

1 **ズームレバーを側に押す**

・拡大表示になり、画面右上に SET が表示されます。
・約 10 倍まで拡大できます。

表示位置の目安

2 **↑/↓ または ←/→ で表示位置を変更する**

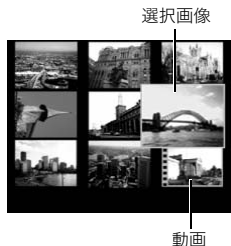
・拡大再生中に FUNC./SET ボタンを押すと、画像送りモードになり、SET が表示されます。←/→ ボタンで拡大したまま、前または次の画像を表示できます。再度 FUNC./SET ボタンを押すと、画像送りモードを解除します。
・ズームレバーで倍率を変更できます。

解除のしかた:ズームレバーを側に押す(MENU ボタンを押すと、すぐに解除できます。)

動画、インデックス再生時は拡大表示できません。

9 画像ずつまとめて見る(インデックス再生)

1 ズームレバーを側に押す

・9 画像ずつ表示されます。
・▲/▼ または ◀/▶ ボタンで選択画像を切り換えます。

解除のしかた：ズームレバーを 側に押す

9 画像ずつ表示を切り換える

インデックス再生中にズームレバーを側に押すと、ジャンプバーが表示され、9 画像ずつ表示の切り換えができます。

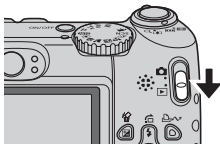
・◀/▶ ボタンで前または次の 9 画像を表示します。
・FUNC./SET ボタンを押しながら ◀/▶ ボタンを押すと、最初または最後の 9 画像を表示します。

解除のしかた:ズームレバーを 側に押す

ピントや人物の表情を確認する（フォーカスチェッカー）

ピント確認表示にすると、ピントや人物の表情が確認できます。また、表示倍率の変更や画像の切り換えもできるため、顔の表情や目を閉じていないかなどもかんたんに確認できます。

表示する

1 モードスイッチを（再生）に合わせる

2 ピント確認表示になるまで、DISP.を数回押す

・画像に枠が次のとおりに表示されます。

枠の色	内容
橙	右下に表示された画像の範囲を表示します。
白	ピントの合った位置に表示されます。
グレー	再生時に検出された顔の位置に表示されます。

・橙色の枠は、表示倍率の変更、表示位置の移動、表示フレームの切り換えができます（p.105）。

表示倍率や表示位置を変更する

3 ズームレバーを🔍側に押す

・画面右下が大きく表示され、表示倍率や表示位置が変更できる状態になります。

4 変更する

・ズームレバーを操作すると、表示倍率が変更できます。
・▲/▼ または ◀/▶ で表示位置が変更できます。
・FUNC./SET ボタンを押すと、橙色の枠が元の位置に戻ります。複数のフレームが表示されている画像のときは、橙色の枠の位置が切り換わります。

解除のしかた：MENU ボタンを押す

フレームを切り換える

3 (FUNC./SET)を押す

・ピントの合った複数のフレームが表示されたときや、複数の顔が検出されたときは、FUNC./SET ボタンを押すごとに、橙色の枠の位置が切り換わります。なお、表示倍率を変更したまま、カメラが検出した顔位置にフレームを切り換えると、橙色の枠は顔のサイズになります。

目的の画像にジャンプする

カードにたくさんの画像を記録しているときは、次の検索キーでジャンプしながら目的の画像を探し出すと便利です。

	日付ジャンプ	各撮影日の先頭画像を表示します。
	マイカテゴリージャンプ	自動カテゴリー（p.99）やマイカテゴリー（p.107）で分類された各カテゴリーの先頭画像を表示します。
	フォルダジャンプ	各フォルダの先頭画像を表示します。
	動画ジャンプ	動画を表示します。
	10 枚ジャンプ	10 枚先の画像を表示します。
	100 枚ジャンプ	100 枚先の画像を表示します。

1 シングル再生時に、を押す

・検索ジャンプモードになります。

2 ▲/▼ で検索キーを選ぶ

・DISP. ボタンで、画像情報の表示 / 非表示の切り換えができます。
・画像をカテゴリー分けしていないときはマイカテゴリーは表示されません。

画像情報

3 画像を表示する

1. ◀/▶ を押す
・MENU ボタンを押すと解除します。
・のときは、FUNC./SET ボタンを押すと、動画再生パネルが表示されます（p.109）。

検索キーに合致した画像数

現在表示中の画像の位置

解除のしかた：MENU ボタンを押す

カテゴリーに分けて管理する（マイカテゴリー）

画像を、あらかじめ用意されているカテゴリーに分類し、カテゴリー単位で管理することができます。カテゴリー分けすると、目的の画像にジャンプして表示できます（p.106）。

	人物
	風景
	イベント

	マイカテゴリー1～3
	作業用

1 [マイカテゴリー]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [ ]メニューから、▲/▼ で を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

2 分類する

1. ◀/▶ で分類する画像を選ぶ
2. ▲/▼ でカテゴリーの種類を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

・再度FUNC./SETボタンを押すと設定を解除できます。
・MENU ボタンを押すと、設定を終了します。
・インデックス再生時も設定できます。

動画を見る

1 動画を表示する

1. ←/→ で動画を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・ SET 🎥の表示されている画像が動画です。

2 再生する

1. ←/→ で ▶ を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・再生中に FUNC./SET ボタンを押すと、再生が一時停止します。再度ボタンを押すと再開します。
・再生が終了すると、最終フレームが表示されたままで停止します。FUNC./SET ボタンを押すと、動画再生パネルが表示されます。
・動画再生中に DISP. ボタンを押すと、再生バーの表示 / 非表示の切り換えができます。
・前回、再生を中断した場合は、最後に再生したフレームから表示されます。

動画再生パネルの操作

	終了	シングル再生画面に戻ります。
	印刷	プリンター接続時にアイコンが表示されます。詳細はダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。
	再生	再生します。
	スロー再生	スロー再生の速度は、◆ボタンで遅く、◆ボタンで速くできます。
	先頭フレーム	先頭フレームへ移動します。
	フレーム戻し	FUNC./SET ボタンを押し続けると早戻しします。
	フレーム送り	FUNC./SET ボタンを押し続けると早送りします。
	最終フレーム	最終フレームを表示します。

インデックス再生時は、動画は再生できません。

- テレビで動画を再生するときは、テレビで音量を調節してください（p.138）。
- スロー再生中、音声は再生されません。

回転して表示する

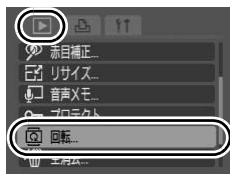
時計方向に 90 度、270 度に回転して表示します。

元画像

90 度

270 度

1 [回転]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で 回転 を選ぶ
3. FUNC./SET を押す

2 回転する

1. ◀/▶ で回転する画像を選ぶ
2. FUNC./SET を押す

・FUNC./SET ボタンを押すごとに、90 度 →270 度 → 元画像が表示されます。
・インデックス再生時も設定できます。

カメラで回転した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。

回転結果は画像に記録されるので、次回の表示以降は回転後の画像が表示されます。

効果をつけて再生する

画像の切り換え時に使用する効果を選択できます。

	効果なし
	表示中の画像が暗くなり、次の画像が徐々に明るく表示されます。
	◆ボタンを押すと左側から前の画像が、◆ボタンを押すと右側から次の画像が表示されます。

1 [再生効果]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で を選ぶ

2 設定する

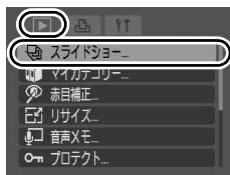
1. ◆/◆ で再生効果の種類を選ぶ
2. MENU を押す

画像を自動再生する(スライドショー)

カード内の画像を自動再生します。1 画像の表示時間は約 3 秒です。

	効果なし
	次の画像が徐々に明るくなりながら、画面の下から上方向に表示されます。
	画像が左方向に動きながら、右側から次の画像が表示されます。

1 [スライドショー]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

2 効果の種類を選ぶ

1. ◀/▶ で選ぶ

3 再生する

1. FUNC. SET を押す

・自動再生中は、次のことができます。
- 一時停止 / 再開：FUNC./SET ボタンを押す
- 画像の送り / 戻し：◀/▶ ボタンを押す（ボタンを押し続けると早送りします）。
- 中止：MENU ボタンを押す

シングル再生時、FUNC./SET ボタンを押しながら印刷/共有ボタンを押すと、表示中の画像からスライドショーを開始できます。なお、最後に撮影した画像を表示中のときは、その画像と同じ日付の先頭の画像から開始されます。

赤目を補正する

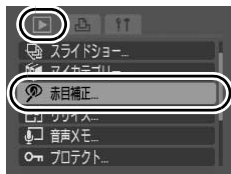
目が赤く写ってしまった画像の赤目の部分を補正できます。

画像によっては赤目が自動的に検出されなかったり、思い通りに補正されない場合がありますので、補正した画像は［新規保存］することをおすすめします。

<主な例>

- 顔が画面の端にある、または画面全体に対して極端に小さい、大きい、暗いまたは明るい
- 顔が横や斜めを向いていたり、顔の一部が隠れている

1 [赤目補正]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で赤目補正を選ぶ
3. FUNC./SET を押す

2 画像を選ぶ

1. ◀/▶ で赤目を補正する画像を選ぶ
2. FUNC./SET を押す

・赤目を検出した位置に、自動的に枠が表示されます。
・赤目が自動的に検出されなかった場合は、◀/▶ ボタンで［補正枠の追加］を選び、FUNC./SET ボタンを押します（p.116）。
・補正枠を削除するには、［補正枠の削除］を選び、FUNC./SET ボタンを押します（p.117）。

3 補正する

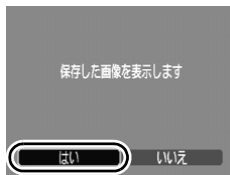
1. ←/→ で[補正実行]を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

4 保存する

1. ←/→ で[新規保存]または[上書き保存]を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・[新規保存]：新しいファイル名をつけて保存します。補正前の画像は残ります。新規に保存された画像は、撮影した画像の一番最後に保存されます。
・[上書き保存]：補正前の画像と同じファイル名で保存されます。補正前の画像は残りません。
・[新規保存] の場合は、手順 5 へ進みます。
・引き続き、他の画像の赤目を補正したいときは、手順 2 から繰り返します。

5 保存した画像を表示する

1. (MENU) を押す
2. ←/→ で[はい]を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

・[いいえ] を選んだ場合は再生メニューに戻ります。

- 動画は赤目補正できません。
- プロテクトされている画像は、上書き保存できません。

- カードの空き容量が足りないときは、赤目補正はできません。
- 何度でも赤目補正を行うことができますが、画質が低下することがあります。
- 一度赤目補正を行った画像は、自動的に補正枠は表示されません。［補正枠の追加］を選択してください。

補正枠を追加する

1 **[補正枠の追加]を選ぶ**

1. ▲/▼ または ◀/▶ で[補正枠の追加]を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

・緑色の枠が表示されます。

2 **補正枠の位置を調整する**

1. ◀/▶ または ▲/▼ で調整する

・ズームレバーで枠の大きさを変更できます。

3 **補正枠を追加する**

1. (FUNC./SET) を押す

・補正枠が追加され、枠が白色に変わります。
・さらに枠を追加したいときは、位置を調整して FUNC./SET ボタンを押します。
・補正枠は 35 個まで追加できます。
・補正枠の追加を終了するには、MENU ボタンを押します。

赤目を正しく補正するために、以下の点にご注意ください(手順 2 の画面例を参照)。

- なるべく赤目の部分だけを囲むように補正枠の大きさを調整してください。
- 赤目の人が複数いる場合、必ず 1 人ずつ補正枠を設定してください。

補正枠を削除する

1 [補正枠の削除]を選ぶ

1. ▲/▼ または ◀/▶ で[補正枠の削除]を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

2 削除する補正枠を選ぶ

1. ◀/▶ で削除したい枠を選ぶ

・選択中の枠が緑色で表示されます。

3 補正枠を削除する

1. (FUNC. SET) を押す

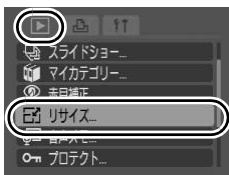
・選択した枠が削除されます。
・続けて枠を削除したいときは、手順2から操作を繰り返します。
・補正枠の削除を終了するには、MENU ボタンを押します。

画像の記録画素数を変更する(リサイズ)

撮影した画像を、元の画像より小さな記録画素数で新規に保存できます。

M3	1600 × 1200 画素
S	640 × 480 画素
XS	320 × 240 画素

1 [リサイズ]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

2 画像を選ぶ

1. ◀/▶ でリサイズしたい画像を選ぶ
2. FUNC. SET を押す

・リサイズできない画像は、FUNC./SET ボタンを選択できません。

3 記録画素数を選ぶ

1. ◀/▶ で記録画素数を選ぶ
2. FUNC. SET を押す

・カードの空き容量により、選択できない記録画素数には、⃠が表示されます。

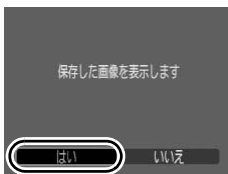
4 保存する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. (FUNC. SET) を押す

・リサイズした画像は、新しいファイル名で保存されます。リサイズ前の画像は残ります。
・引き続き、他の画像をリサイズしたいときは、手順 2 から繰り返します。

5 保存した画像を表示する

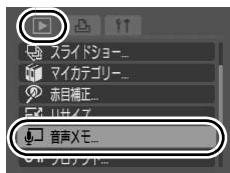
1. (MENU) を押す
2. ←/→ で[はい]を選ぶ
3. (FUNC. SET) を押す

・［いいえ］を選んだ場合は再生メニューに戻ります。

(動画) または (W) で撮影した画像は、リサイズできません。

音声メモをつける

画像の再生中に、最長 1 分の音声メモをつけることができます。音声データは WAVE タイプで保存されます。

1 [音声メモ]選ぶ

1. (MENU) を押す
2. [▶]メニューから、▲/▼ で (音声メモ) を選ぶ
3. (FUNC./SET) を押す

2 画像を選ぶ

1. ◀/▶ で音声メモをつける画像を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

・音声メモパネルが表示されます。

3 録音する

1. ◀/▶ で ● を選ぶ
2. (FUNC./SET) を押す

・録音時間と録音可能時間が表示されます。
・FUNC./SET ボタンを押すと録音を一時停止します。再度ボタンを押すと再開します。
・1 画像につき、合計が 1 分に達するまで音声メモを追加できます。

音声メモパネル

録音時間 / 録音可能時間

音量（▲/▼ ボタンで調節）

・MENU ボタンを何回か押して、設定を終了します。

音声メモパネルの操作

◆/◆ ボタンで選んで、FUNC./SET ボタンを押します。

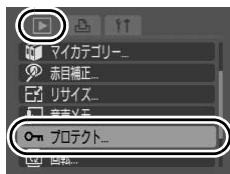
	終了	操作を終了します。
	録音	録音を開始します。
	停止	録音または再生を停止します。
	再生	再生します。
	消去	消去します（表示される画面で［消去］を選び、FUNC./SET ボタンを押します）。

- 動画には音声メモをつけられません。
- プロテクトされている画像の音声メモは消去できません。

画像をプロテクト（保護）する

大切な画像や動画を誤って消去しないように、プロテクトの設定ができます。

1 [プロテクト]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で O┅ を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

2 プロテクトする

プロテクトマーク

1. ◀/▶ でプロテクトしたい画像を選ぶ
2. FUNC. SET を押す

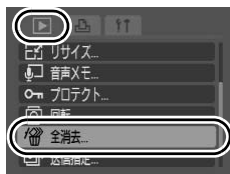
・画面左下にプロテクトマークが表示されます。
・再度 FUNC./SET ボタンを押すとプロテクトを解除できます。
・引き続きほかの画像をプロテクトしたいときは、操作を繰り返します。
・インデックス再生時も設定できます。
・MENU ボタンを押すと、設定を終了します。

全画像を消去する

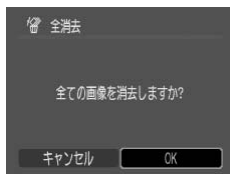
カード内の画像を消去します。

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。
- プロテクトされている画像は消去できません。

1 **[全消去]を選ぶ**

1. MENU を押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で 全消去アイコン を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

2 **消去する**

1. ◀/▶ で[OK]を選ぶ
2. FUNC. SET を押す

・全消去を中止したいときは、[キャンセル] を選びます。

画像データだけでなく、カードの記録内容をすべて消去したいときは、カードを初期化してください(p.131)。

印刷指定 / 送信指定する

印刷指定(DPOF)

カードに記録されている画像の中から、印刷する画像や枚数をあらかじめカメラ側で指定できます。この指定は、DPOF *に準拠しています。カメラダイレクト対応プリンターで一括して印刷するときや、プリント取り扱い店に注文するときに大変便利です。
*Digital Print Order Format の略称。

- 印刷指定した内容は、印刷予約時 (p.19) にも反映されます。
- プリンターまたはプリント取り扱い店によっては、印刷指定した内容が反映されないことがあります。
- 動画は印刷指定できません。
- DPOF 対応の他のカメラで印刷指定されたカードの場合、▲が表示されることがあります。このカメラでそれらの印刷指定を変更すると、指定済みの内容はすべて書き換えられます。

印刷スタイルを設定する

印刷スタイルを設定してから、印刷する画像を選んでください。

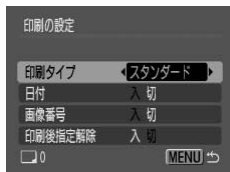
*初期設定

印刷タイプ	スタンダード*	用紙 1 枚に 1 画像を印刷します。
	インデックス	画像を縮小してインデックス形式で印刷します。
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付（入 / 切*）		日付を入れて印刷します。
画像番号（入 / 切*）		画像番号を入れて印刷します。
印刷後指定解除（入* / 切）		印刷後、画像の印刷指定をすべて解除します。

1 [印刷の設定]を選ぶ

1. MENU を押す
2. ◆/◆ で [凸] メニューを選ぶ
3. ▲/▼ で[印刷の設定]を選ぶ
4. FUNC SET を押す

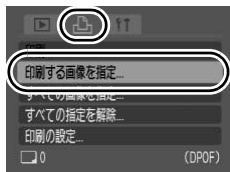
2 設定する

1. ▲/▼ で設定項目を選ぶ
2. ◆/◆ で設定したい内容を選ぶ
3. MENU を押す

- 印刷タイプによって、日付と画像番号の設定は次のようになります。
  - [インデックス] のとき
    [日付] と [画像番号] を同時に設定できません。
  - [スタンダード] または [両方] のとき
    [日付] と [画像番号] を同時に [入] に設定できます。ただし、お使いのプリンターによって、印刷できる情報が異なることがあります。
- (日付写し込み) で日付を写し込んだ画像 (p.20) は、[日付] の設定にかかわらず、日付が印刷されます。そのため [日付] を [入] に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷される場合があります。
- 日付は、[ ] メニューの [日付 / 時刻] で設定した日付スタイルで印刷されます (p.49)。

1 画像ずつ指定する

印刷タイプの設定（p.124）が［スタンダード］/［両方］のときは、印刷枚数も設定できます。

1 [印刷する画像を指定]を選ぶ

1. MENU を押す
2. ←/→ で [印刷] メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[印刷する画像を指定]を選ぶ
4. FUNC./SET を押す

2 画像を選ぶ

・印刷タイプの設定（p.124）によって異なります。

スタンダード(■)/両方(■▦)のとき

1. ←/→ で画像を選ぶ
2. FUNC./SET を押す
3. ↑/↓ で印刷枚数を指定する(最大99 枚まで)
4. MENU を押す

印刷枚数表示

インデックス(▦)のとき

1. ←/→ で画像を選ぶ
2. FUNC./SET で指定、指定解除をする
3. MENU を押す

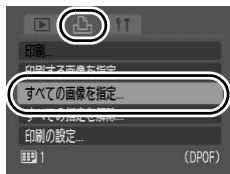
・インデックス再生（9 画像表示）にしても設定できます。

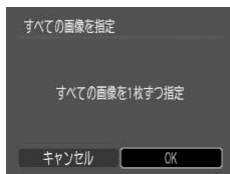
インデックス印刷の選択

カード内のすべての画像を指定する

すべての画像に対して1枚ずつ印刷指定されます。

1 [すべての画像を指定]を選ぶ

1. MENU を押す
2. ←/→ で[凸]メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[すべての画像を指定]を選ぶ
4. FUNC. SET を押す

2 [OK]を選ぶ

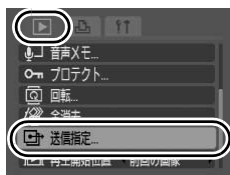
1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. FUNC. SET を押す

- 画像番号の順に印刷されます。
- 最大998画像まで指定できます。
- プリンターに接続している場合、画像が指定されると 凸〜 ボタンが青色に点灯します。このとき、凸〜 ボタンを押して、［印刷］が選択されていることを確認し、FUNC./SET ボタンを押すと、印刷が開始されます。
- 手順1で［すべての指定を解除］を選ぶと、画像の印刷指定をすべて解除します。

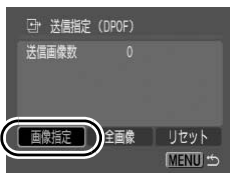
送信指定(DPOF)

パソコンに取り込む画像をあらかじめカメラ側で指定できます。パソコンへの送信方法は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。なお、この指定は、DPOF に準拠しています。

DPOF 対応の他のカメラで送信指定されたカードの場合、▲ が表示されることがあります。このカメラでそれらの送信指定を変更すると、指定済みの内容はすべて書き換えられます。

1 [送信指定]を選ぶ

1. MENU を押す
2. [▶] メニューから、▲/▼ で 送信指定 を選ぶ
3. FUNC. SET を押す

2 指定方法を選ぶ

1. ◀/▶ で選ぶ
   画像指定：1 画像ずつ選んで指定します。
   全画像　：カード内のすべての画像を指定します。
2. FUNC. SET を押す

・[リセット] を選ぶと、送信指定をすべて解除します。

[画像指定]のとき

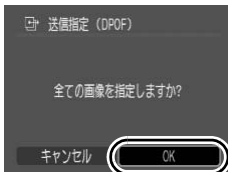
3 送信する画像を選ぶ

1. ◆/◆ で選ぶ
2. (FUNC SET) を押す
   - 再度 FUNC./SET ボタンを押すと選択を解除できます。
   - インデックス再生時も設定できます。
3. (MENU) を何回か押して、設定を終了する

送信画像の選択

[全画像]のとき

3 実行する

1. ◆/◆ で[OK]を選ぶ
2. を押す

- 画像番号の順に送信されます。
- 最大 998 画像まで指定できます。

カメラの設定をする

節電機能について

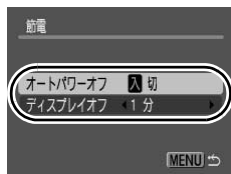
このカメラには節電機能がついており、自動的に電源を切ったり、液晶モニターの表示を消したりできます。

オートパワーオフ	［入］に設定すると、次のようなときに電源が切れます。再度スイッチを押すと復帰します。 撮影時：約 3 分間、カメラの操作を何もしないとき 再生時、プリンター接続時：約 5 分間、カメラの操作を何もしないとき
ディスプレイオフ	撮影モードでは、［オートパワーオフ］の設定にかかわらず、設定した時間内にカメラの操作を何もしないと、液晶モニターが消えます。電源スイッチ以外のボタンを押すか、またはカメラの縦横の向きを変えると復帰します。

1 [節電]を選ぶ

1. MENU を押す
2. ←/→ で[ ]メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[節電]を選ぶ
4. FUNC. SET を押す

2 設定する

1. ↑/↓ で項目を選ぶ
2. ←/→ で設定する
3. MENU を押す

3 を押す

スライドショーで自動再生中およびパソコン接続時は、節電機能は働きません。

カードを初期化する

新しいカードをお使いになるときや、カード内の画像だけでなく他のデータもすべて消去したいときは、カードを初期化します。

初期化すると、カードに記録された画像（プロテクト画像も含む）だけでなく、すべてのデータが消去されますので、ご注意ください。

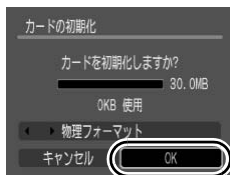
1 [カードの初期化]を選ぶ

1. MENU を押す
2. ←/→ で[ ]メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[カードの初期化]を選ぶ
4. FUNC/SET を押す

2 設定する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. FUNC/SET を押す

・物理フォーマットをする場合は、↑ボタンで［物理フォーマット］を選び、←/→ ボタンでチェックをつけます。

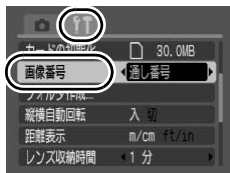
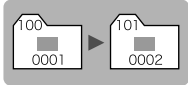
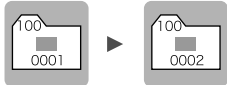
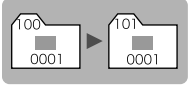
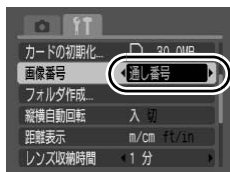
・物理フォーマットの場合、初期化中に FUNC./SET ボタンを押すと、中止できます。中止した場合でも、そのカードは問題なくお使いになれますが、データはすべて消去されます。

物理フォーマットについて
カードへの記録 / 読み出し速度が低下したと思われる場合などは、[物理フォーマット] を選択することをおすすめします。なお、カードによっては、物理フォーマットに 2 ～ 3 分かかる場合があります。

画像番号をリセットする

撮影した画像には、自動的に画像番号がつきます。その画像番号の設定方法を選択します。

通し番号	最後に撮影した画像の続き番号が次の画像につけられます。そのため、フォルダを変更したり、カードを交換*したりしても、画像番号が重複しません。パソコンで画像をまとめて管理する場合に便利です。 * 新規のカードに交換時。記録済みのカードを入れたときは、最後に撮影した画像のフォルダ番号と画像番号を合わせた 7 桁の番号を比べ、大きいほうの番号を引き継ぎます。
オート リセット	フォルダ番号、画像番号が初期値（100-0001）に戻ります*。フォルダ単位で管理する場合に便利です。 * 新規のカードに交換時。記録済みのカードを入れたときは、そのカードに記録されている画像のフォルダ番号と画像番号を合わせた 7 桁の番号の続きの番号になります。

1 [画像番号]を選ぶ

1. MENU を押す
2. ←/→ で [ ] メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[画像番号]を選ぶ

2 設定する

1. ←/→ で画像番号の種類を選ぶ
2. MENU を押す

画像番号およびフォルダ番号について

撮影した画像には、0001 ～ 9999 までの画像番号が割り振られ、各フォルダには、100 ～ 999 までの番号が割り振られます。
ひとつのフォルダには、2000 画像ずつ保存されます。

	フォルダを新規に作成した場合	他のカードに交換した場合
通し番号	カード 1 100 0001 ▶ 101 0002	カード 1 カード 2 100 0001 ▶ 100 0002
オートリセット	カード 1 100 0001 ▶ 101 0001	カード 1 カード 2 100 0001 ▶ 100 0001

・次の設定で撮影した画像は、必ずひとつのフォルダに保存されるため、2000 画像に満たなくても、十分な空きがない場合には、新しいフォルダに保存される場合があります。
　・連続撮影　・セルフタイマー（カスタムの場合）
・同じフォルダ番号や、フォルダ内に同じ画像番号が複数あるときは、再生できません。
・フォルダの構造や画像のタイプについては、ソフトウェアクイックガイドでご確認ください。

画像の保存先(フォルダ)を作成する

任意のタイミングで新しいフォルダを作成できます。撮影した画像は、そのフォルダ内に自動的に保存されます。

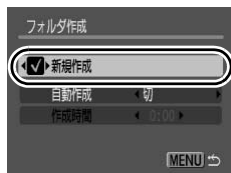
新規作成	次回撮影時に新しいフォルダを作成します。また新しいフォルダを作成したい場合には、再度チェックマークをつけてください。
自動作成	指定した日時以降の撮影時に、新しいフォルダを作成したい場合、日時を指定します。

次回撮影時にフォルダを作成する

1 [フォルダ作成]を選ぶ

1. MENU を押す
2. ←/→ で [設定] メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[フォルダ作成]を選ぶ
4. FUNC. SET を押す

2 設定する

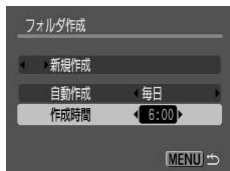
1. ←/→で[新規作成]にチェックマークをつける
2. MENU を押す

・撮影時、液晶モニターに ■ が表示されます。フォルダが作成されると、表示は消えます。

指定した日時にフォルダを作成する

1 [フォルダ作成]を選ぶ

1. MENU を押す
2. ←/→ で [🔧] メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[フォルダ作成]を選ぶ
4. FUNC. SET を押す

2 設定する

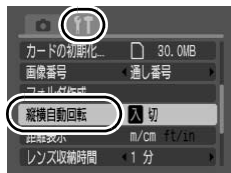
1. ↑/↓ で[自動作成]を選び、←/→ で作成日を選ぶ
2. ↑/↓ で[作成時間]を選び、←/→ で時刻を設定する
3. MENU を押す

・指定した日時になると、液晶モニターに が表示されます。フォルダが作成されると、表示は消えます。

ひとつのフォルダに最大 2000 画像まで保存されます。新規にフォルダを作成しなくても、2000 画像を超えると、新しいフォルダが自動的に作成されます。

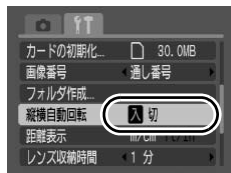
縦横自動回転を設定する

このカメラには SI（Super Intelligent）センサーが装備されており、縦位置で撮影した画像は、再生時に正しい縦位置に回転して表示されます。

1 [縦横自動回転]を選ぶ

1. MENU を押す
2. ←/→ で [ ] メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[縦横自動回転]を選ぶ

2 設定する

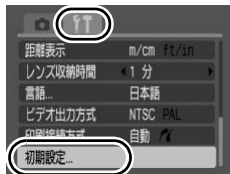
1. ←/→ で[入]または[切]を選ぶ
2. MENU を押す

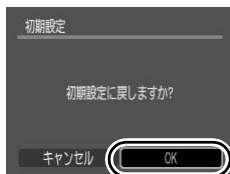
・[入] のときは、撮影時に液晶モニターに （通常）、 （右が下）、または （左が下）が表示されます（情報表示ありのとき）。

- カメラを真上や真下に向けて撮影すると、正しく機能しない場合があります。アイコン（ ）を確認し、正しく天地を判断しない場合は、[切] にしてお使いください。
- 縦横自動回転の設定が [入] のときに縦位置で撮影した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては、回転結果が反映されないことがあります。

このカメラは、SI センサーにより、縦位置で構えて撮影する場合、上側を「天」、下側を「地」と判断し、縦位置に最適なフォーカス、露出、ホワイトバランス制御を行います。この機能は、縦横自動回転の入 / 切に関係なく有効です。

設定を初期状態に戻す

1 [初期設定]を選ぶ

1. MENU を押す
2. ←/→ で[YT]メニューを選ぶ
3. ↑/↓ で[初期設定]を選ぶ
4. FUNC. SET を押す

2 設定する

1. ←/→ で[OK]を選ぶ
2. FUNC. SET を押す

- パソコン接続時、プリンター接続時は初期状態に戻せません。
- 以下の設定は、初期状態に戻りません。
  - 撮影モード
  - [YT] メニューの [日付 / 時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式] の設定 (p.49、50)
  - マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ (p.94)

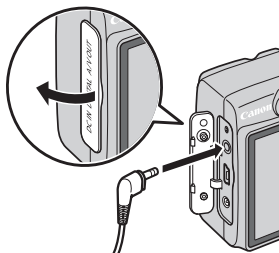
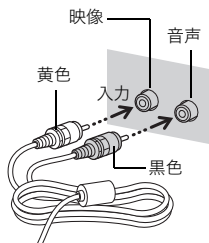
テレビにつなぐ

テレビを使って撮影 / 再生する

付属の AV ケーブルをお使いいただくと、撮影時や再生時、テレビに画像を映し出すことができます。ビデオ出力方式は、日本国内で採用している NTSC 方式が初期設定になっています。

1 **カメラとテレビの電源を切る**

2 **カメラの A/V OUT 端子に AV ケーブルを接続する**

・カメラの端子カバーを開き、AV ケーブルを奥まで差し込みます。

3 **テレビの映像入力端子と音声入力端子に AV ケーブルを接続する**

4 **テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする**

5 **カメラの電源を入れる**

ビデオ出力方式の設定方法（p.50）

こんなときには

カメラ全般

カメラが動作しない	
電源が入っていません。	●電源スイッチを押してください（p.40）。
メモリーカードスロット / バッテリーカバーが開いています。	●カバーがしっかりと閉じていることを確認してください（p.9）。
電池が逆向きに入っています。	●電池を正しい方向で入れ直してください（p.8）。
不適切な電池が入っています。	●未使用の単3形アルカリ電池またはキヤノン製の単3形ニッケル水素電池を入れてください（p.8）。
電池の残量が少なく動作不能です（「バッテリーを交換してください」というメッセージが表示されます）。	●未使用の電池、または十分に充電された充電池に2本とも交換してください（p.8）。 ●ACアダプターキットACK800(別売)を使用してください（p.34、165）。
カメラと電池の接触不良です。	●電池の電極を乾いたきれいな布で拭いてください。 ●電池を数回入れ直してください。

カメラ内部で音がする	
カメラの縦・横の向きが変わりました。	● カメラの向きを検出する機構が働いています。カメラの故障ではありません。

電源を入れたとき

「ライトプロテクト」が表示された	
SD メモリーカード、SDHC メモリーカードの「ライトプロテクト（書き込み禁止）」スイッチが、「書き込み禁止」になっています。	● 書き込み、消去、初期化したいときは、ライトプロテクトスイッチを上にスライドしてください（p.161）。
日付 / 時刻の設定画面が表示された	
コイン型リチウム電池の容量がなくなっています。	● コイン型リチウム電池を交換してください（p.172）。
コイン電池ホルダーを抜きました。	● 日付と時刻が初期化されるため、再度日付と時刻を設定してください（p.11）。

液晶モニター

表示されない	
液晶モニターが非表示の設定になっています。	● DISP. ボタンを押して液晶モニターをつけてください（p.51）。
[節電] の [ディスプレイオフ] の設定が働いています。	● 電源スイッチ以外のボタンを押すか、またはカメラの縦横の向きを変えてください（p.130）。

表示が黒くなる

太陽や強い光が当たると黒くなることがあります。	● これはCCD特有の現象で、カメラの故障ではありません（動画にはこの画像が記録されますが、静止画には記録されません）。

画面がちらつく

蛍光灯の下で撮影しています。	● カメラの故障ではありません（動画には記録されますが、静止画には記録されません）。

赤紫などの帯が表示された

太陽や照明などの明るい被写体を撮影するときに表示されることがあります。	● これはCCD特有の現象で、カメラの故障ではありません（動画にはこの帯が記録されますが、静止画には記録されません）。

が表示された

光量不足で、シャッタースピードが遅くなっているなどの理由が考えられます。	● 手ぶれ補正を［切］以外に設定してください（p.62）。 ● ISO 感度を上げてください（p.64）。 ● ストロボを（発光禁止）以外に設定してください（p.57）。 ● セルフタイマーを設定し、三脚などでカメラを固定して撮影してください（p.58）。

が表示された

DPOF 対応の他のカメラで、印刷指定や送信指定されたカードです。	● このカメラでそれらの印刷指定や送信指定を変更すると、指定した内容はすべて書き換えられますのでご注意ください（p.124、128）。

ノイズが表示される / 被写体の動きがぎこちない	
暗い場所で撮影する場合、液晶モニターを見やすくするために、カメラが自動的に液晶モニターに映し出される画像を明るくしました（p.52）。	● 記録される画像に影響はありません。

撮影のとき

撮影できない	
再生モード、またはパソコン接続 / プリンター接続モードになっています。	● 撮影モードに切り換えてください（p.13）。
ストロボが充電中です。	● 充電が完了するとランプが橙色に点灯し、撮影できます（p.41）。
カードの空き容量がありません。	● 新しいカードを入れてください（p.8）。 ● 必要であれば、カードに記録されている画像をパソコンに取り込んでから画像を消去し、空き容量を増やしてください。
カードが正しく初期化されていません。	● カードを初期化してください（p.131）。 ● カードの論理フォーマットが壊れている可能性があります。お客様相談センターにお問い合わせください。
SD メモリーカード、SDHC メモリーカードがライトプロテクト（書き込み禁止）されています。	● ライトプロテクトスイッチを上にスライドしてください（p.161）。

ファインダーから見える範囲と、撮影された範囲にズレがある	
通常はファインダーから見える範囲よりも広い範囲が撮影されます。	●実際に撮影される範囲は、液晶モニターで確認してください。マクロモードのときは、このズレが大きいので、必ず液晶モニターを使用してください（p.51）。
画像がぼやけている、ピントが合いにくい	
シャッターボタンを押したとき、カメラが動いています。	●「 が表示された」（p.141）でご確認ください。
AF 補助光が［切］になっています。	●暗い場所などでピントが合いにくいとき、AF 補助光が光ってピントを合いやすくします。AF 補助光が「切」だと機能しないので、「入」にして、AF 補助光を発光させてください（p.47）。このとき、AF 補助光投光部に手がかからないように注意してください。
被写体がピントの合う範囲から外れています。	●正しい撮影距離範囲内に被写体を収めて撮影してください（p.176）。 ●意図しない機能（例えばマクロやマニュアルフォーカスなど）が設定されている可能性がありますので、設定を解除してください。
ピントが合いにくい被写体です。	●フォーカスロックまたはマニュアルフォーカスで撮影してください（p.88）。
撮影した画像の被写体が暗すぎる	
撮影時の光量が不足しています。	●内蔵ストロボを （常時発光）にしてください（p.57）。
周辺部が明るすぎるため、狙った被写体の露出がアンダー（露出不足）になっています。	●露出補正値をプラス側に設定してください（p.91）。 ●スポット測光機能をお使いください（p.92）。

被写体が遠すぎてストロボ光が届いていません。	●ストロボをお使いになるときは、内蔵ストロボ調光範囲内に被写体を収めて撮影してください（p.177）。 ●ISO 感度を上げて撮影してください（p.64）。

撮影した画像の被写体が明るすぎる、または白飛びする

被写体が近すぎてストロボ光が強すぎます。	●ストロボをお使いになるときは、内蔵ストロボ調光範囲内に被写体を収めて撮影してください（p.177）。 ●調光補正（p.79）でストロボの発光量を調節してください。 ●セーフティ FE を［入］にしてください（p.79）。
周辺部が暗すぎるため、狙った被写体の露出がオーバー（露出過多）になっています。	●露出補正値をマイナス側に設定してください（p.91）。 ●スポット測光機能をお使いください（p.92）。
照明が直接、もしくは被写体の表面で反射してカメラに入っています。	●被写体に対するカメラのアングルを変えてください。
ストロボが （常時発光）になっています。	●ストロボを （発光禁止）にしてください（p.57）。

画像にノイズがある

ISO 感度が高すぎます。	●高い ISO 感度や （高感度オート）を選ぶと、画像にノイズが増えることがあります。画質を優先する場合には、なるべく低い感度を選んでください（p.64）。 ● 、 、 や SCN モードの では、ISO 感度が上がり、ノイズが発生しやすくなります。

画像に白い点などが写る	
ストロボ撮影時に空気中のちりやほこり、虫などにストロボ光が反射しました。特にワイド側や、**Av** モードで絞り数値を大きくして撮影したときに、目立ちやすくなります。	● デジタルカメラ特有の現象でカメラの故障ではありません。

目が赤く写る	
暗い所でストロボを発光したため、ストロボの光が目に反射しました。	●［ストロボ設定］メニューの［赤目緩和ランプ］を［入］に設定して撮影してください（p.79）。写される人が赤目緩和ランプを見ていないと効果がありません。ランプを見るよう声をかけてください。「室内を明るくする」、「写したい人に近付く」とより効果があります。ただし、赤目緩和ランプが点灯するときに、効果を高めるため、約1秒間シャッターは切れませんのでご注意ください。 ●［ストロボ設定］メニューの［赤目自動補正］を［入］に設定すると、撮影時にカメラが赤目を自動で補正してカードに記録します（p.79）。 ● 赤目で撮影された画像は、再生メニューの［赤目補正］で修正できます（p.113）。

連続撮影速度が遅くなった	
カードの性能が低下しました。	● 連続撮影の性能を十分に発揮するため、撮影した画像をパソコンに保存してから、カメラで カードを物理フォーマットすることをおすすめします（p.131）。

カードへの画像の記録時間が長い

違う機器で初期化したカードが入っています。	● このカメラで初期化したカードをお使いください（p.131）。

レンズが出たままで収納されない

電源を入れたまま、メモリーカードスロット/バッテリーカバーを開けました。	● メモリーカードスロット / バッテリーカバーを閉じた後、電源を入れ直してください。

動画撮影のとき

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

以下のようなカードをお使いです。 - 書き込み速度が遅い - 他のカメラやパソコンで初期化した - 撮影 / 消去を繰り返した	● 撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が記録されています。カードをこのカメラで初期化すると、正しい時間が表示されます（書き込み速度の遅いカードを除く）（p.131）。

液晶モニターに「！」が赤く表示され、撮影が自動的に終了した

カメラの内部メモリーが少なくなりました。	● 以下の方法をお試しください。 - 撮影する前にカードを物理フォーマットする（p.131） - 記録画素数を小さくする（p.77） - 高速のカード（SDC-512MSH など）を使用する

ズームできない

動画撮影中にズームレバーを押しました。	● 撮影前にズームを操作してから、動画を撮影してください（p.53）。ただし、デジタルズームは撮影中もお使いになれます（スタンダードのみ）。

再生のとき

再生できない

症状	対処
他のカメラで撮影した画像やパソコンで編集した画像を再生しようとしました。	● 付属の ZoomBrowser EX や ImageBrowser を使って、再生できない画像をパソコンからカメラに追加すると、再生できることがあります。 詳細は、ZoomBrowser EX / ImageBrowser のソフトウェアガイド（PDF）をご覧ください。
ファイル名をパソコンで変更したり、ファイルの場所を変更しました。	● ファイル名およびフォルダ番号は、カメラの形式にあったファイル名にしてください。詳細は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

編集できない

他のカメラで撮影した画像は、編集できない場合があります。

動画を正しく再生できない

大きな記録画素数で撮影した動画を、読み込み速度の遅いカードで再生すると、再生が一瞬中断することがあります。

パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れる場合があります。

カードからの画像の読み出しが遅い

症状	対処
違う機器で初期化したカードが入っています。	● このカメラで初期化したカードをお使いください（p.131）。

電池

電池の消耗が早い

電池の性能が十分に発揮されていません。	● 電池の取り扱いを、「取り扱い上の注意（p.160）」でご確認ください。
不適切な電池が入っています。	● 未使用の単3形アルカリ電池、またはキヤノン製の単3形ニッケル水素電池を入れてください（p.160）。
周囲の温度が低いために電池の容量が低下しています。	● 温度が比較的低い場所で撮影する場合には、ポケットなどに電池を入れて、温めてからお使いください。
電池の電極が汚れています。	● 電極を乾いた布などで拭いてからお使いください。 ● 電池を数回入れ直してください。

キヤノン製の単3形ニッケル水素電池をお使いの場合

1年以上お使いにならなかったために、充電池の容量が低下しています。	● フル充電して使い切ることを数回繰り返すうちに容量が回復します。
充電池の寿命です。	● 2本ともすべて未使用の充電池と交換してください。

テレビ出力

テレビに出力できない / 画面が乱れる

お使いの地域のビデオ出力方式に合っていません。	● 正しいビデオ出力方式（NTSC または PAL）に合わせてください（p.50）。日本国内の出力方式は、「NTSC」です。

カメラダイレクト対応プリンターで印刷するとき

印刷ができない	
カメラとプリンターが正しく接続されていません。	●指定されたケーブルでカメラとプリンターを正しく接続してください。
プリンターの電源が入っていません。	●プリンターの電源を入れてください。
印刷接続方式が正しくありません。	●［印刷接続方式］で［自動］を選択してください（p.50）。

メッセージ一覧

撮影または再生中に液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。
プリンターを接続しているときに表示されるメッセージについては、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

処理中 ...

撮影した画像をカードに記録したり、赤目補正などの処理をしています。

カメラの設定を初期状態に戻しています。

カードがありません

カードをカメラに入れずに、電源を入れました。または、カードが正しい向きに入っていません（p.8）。

ライトプロテクト

SD メモリーカード、SDHC メモリーカードがライトプロテクト（書き込み禁止）されています（p.161）。

記録できません

カードがカメラに入っていない、または正しい向きに入っていないのに撮影しようとしました。または、動画に音声メモをつけようとしました。

カードが異常です

カードに異常がある可能性があります。異常のあるカードは、本製品で初期化するとお使いになれる場合があります（p.131）。ただし、本製品付属のカードをお使いになっても、このエラーメッセージが表示される場合には、カメラの故障が考えられますので、修理受付窓口にお問い合わせください。

カードがいっぱいです

カードの容量いっぱいに画像が記録されていて、これ以上記録や保存はできません。また、これ以上、画像指定や音声メモの録音はできません。

ファイル名が作成できません

カメラが作成しようとするフォルダと同じ名前のファイルが存在する、もしくは、すでに画像番号が最大値になってしまったために、ファイル名を作成できません。設定メニューで［画像番号］を［オートリセット］に設定してください。または、必要な画像をパソコンに取り込んだ後、カードを初期化してください。なお、初期化すると、カード内の画像およびデータはすべて消去されます。

バッテリーを交換してください

電池の残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに 2 本とも未使用の単 3 形アルカリ電池か、充電されたキヤノン製の単 3 形ニッケル水素電池に交換してください。

また、電池の取り扱いは、「取り扱い上の注意（p.160）」でご確認ください。

画像がありません

カードに画像が記録されていません。

画像が大きすぎます

5616 × 3744 画素より大きな記録画素数の画像、またはファイルサイズの大きな画像を再生しようとしました。

互換性のない JPEG です

互換性のない JPEG 圧縮の画像（パソコンで編集した画像など）を再生しようとしました。

RAW

互換性のない RAW 画像を再生しようとしました。

認識できない画像です

データが破壊されている画像、互換性がない画像（他社カメラ特有の記録タイプなど）、パソコンで編集した画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。

拡大できない画像です

別のカメラもしくは異なるタイプで撮影した画像、いったんパソコンに取り込んで加工した画像、または動画を拡大しようとしました。

回転できない画像です

別のカメラもしくは異なるタイプで撮影した画像、またはパソコンに取り込んで加工した画像を回転させようとしました。

互換性のない WAVE です

録音済みの音声のタイプが正しくないので、この画像に追加録音できません。また、音声の再生もできません。

処理できない画像です

動画またはこのカメラ以外で撮影した画像を赤目補正やリサイズしようとしました。または、W で撮影した画像をリサイズしたり、XS にリサイズした画像を、再度リサイズしようとしました。

処理できません

このカメラ以外で撮影した画像をカテゴリー分けしようとしました。

処理できませんでした

赤目を検出しなかったため、赤目補正処理ができませんでした。

転送できません

ダイレクト転送画面で画像をパソコンへダイレクト転送するとき、データが破壊された画像、別のカメラもしくは異なるタイプで撮影した画像を指定しようとしました。または、［パソコンの背景］を選び、動画を指定しようとしました。

プロテクトされています

プロテクトされている画像や動画、音声メモを、消去または編集しようとしました。

指定が多すぎます

印刷指定、送信指定の画像指定が多すぎます。これ以上指定できません。

指定完了できませんでした

印刷指定、送信指定の画像指定を一部保存できませんでした。

指定できない画像です

JPEG 以外の画像を印刷指定しようとしました。

通信エラー

カードに大量の画像（1000 画像程度）があるため、パソコンに画像が取り込めませんでした。USB カードリーダーや PC カードアダプターを使って画像を取り込んでください。

レンズエラーを検知しました

レンズ駆動中にカメラがエラーを検知して、自動的に電源を切りました。レンズ駆動中にレンズを押さえたり、ほこり / 砂ぼこりの立つ場所などでカメラを起動すると、発生する恐れがあります。いったん電源を入れ直して、撮影または再生してください。頻繁にこのメッセージが表示されるときは、レンズの故障が考えられますので、修理受付窓口へお持ちください。

Exx

カメラがエラーを検知しました。いったん電源を入れ直して、再び撮影または再生してください。頻繁に、このエラーコードが表示されるときは、故障ですので「xx」の数値を控えて修理受付窓口へお持ちください。また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、再生モードに切り換えてご確認ください。

付録

安全上のご注意

- ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。
- 本機器：カメラ、電池、バッテリーチャージャー（別売）、コンパクトパワーアダプター（別売）

この警告事項に反した取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

この注意事項に反した取り扱いをすると、人が傷害または物的損害を負う可能性があることを示します。

△記号は、取り扱いを誤ると、事故につながる可能性があることを示します。記号の中の図は注意事項を意味します。

⃠記号は、禁止の行為を示します。記号の中の図は禁止事項を意味します。（左図：分解禁止）

●記号は、必ず守っていただきたいことがらを示します。記号の中の図は指示内容を意味します。

⚠警告

本機器

●カメラを強い光源（晴天時の太陽など）に向けないでください。

・撮像素子（CCD）が損傷する場合があります。

・視力障害の原因となります。

●お子様や幼児の手の届かないところに保管してください。

・リストストラップ：誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。

・カード：誤って飲み込むと危険です。
万一､飲み込んだ場合には、ただちに医師にご相談ください。

●分解、改造しないでください。

●落下などで、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。

●煙が出ている、焦げ臭いなどの異常状態のまま使用しないでください。

●内部に水などを入れたり、濡らしたりしないでください。水滴がかかったり、潮風にさらされたときは、吸水性のあるやわらかい布で拭いてください。

火災、感電の原因となります。

機器本体の電源を切り、その後必ず電池を外すか、バッテリーチャージャーあるいはコンパクトパワーアダプターをコンセントから抜き、お買い上げになった販売店または修理受付窓口にご連絡ください。

●アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしないでください。

●電源コードに重いものを載せたり、傷つけたり、破損させたり、加工しないでください。

●本機器指定以外の電源は使用しないでください。

●電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったほこりや汚れを乾いた布で拭き取ってください。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

火災、感電の原因となります。

電池

●火に近付けたり、火の中に投げ込まないでください。

●水や海水に濡らさないでください。

●分解、改造したり、加熱しないでください。

●落とすなどして強い衝撃を与えないでください。

●指定外の電池を使用しないでください。

電池の破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。万一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

●外装シールが（一部または全体に関わりなく）剥がれている電池や破損している電池は、絶対に使用しないでください。市販されているままの状態でも、電池によっては、外装シールが十分でないものがあります。このような電池も絶対にお使いにならないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂の原因となり危険です。

以下のような形状の電池はご使用になれません。

外装シールが一部またはすべて剥がしてある電池（裸電池）

プラス電極が平らな電池

マイナス電極の一部が膨らんでいるが、十分に外装シールで被われていない電池

●**バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターは、充電終了後および使用しないときは、カメラと電源コンセントの両方から外してください。**

●**テーブルクロス、じゅうたん、布団、クッションなどをかけたまま充電しないでください。**

長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。

●**キヤノン製の単 3 形ニッケル水素電池を充電する場合は、指定されたバッテリーチャージャー以外は使用しないでください。**

●**コンパクトパワーアダプターの出力端子は本機器専用です。他の製品には、お使いにならないでください。**

発熱、変形して、火災、感電の原因となります。

●**廃却する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。**

廃却の際、他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となります。

その他

●**ストロボを人の目に近付けて発光しないでください。**

特に、乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。視力障害の原因となります。

●**カメラのスピーカーに磁気の影響を受けやすいもの（クレジットカードなど）を近付けないでください。**

それらのデータが壊れて、使用できなくなることがあります。

●**別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、クローズアップレンズ、コンバージョンレンズアダプターを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。**

緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。

⚠注意

本機器

●リストストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えないでください。

●撮影時に、レンズの先端を強く押しつけたり、ぶつけたりしないでください。

けがや本体の故障の原因となることがあります。

●砂浜や風の強い場所で使用するときは、カメラの内部にほこりや砂が入らないようにしてください。

故障の原因になることがあります。

●湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

●電源プラグや充電端子部に金属製のピンやゴミを付着させないでください。

火災、感電、故障の原因となることがあります。

●直射日光のあたる場所、および車のトランクやダッシュボードなどの高温になるところで使用・保管しないでください。

●コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしないでください。また、電源コードや電源プラグが傷んでいたり、コンセントの差し込みが不十分なまま使用しないでください。

●風通しの悪いところで使用しないでください。

液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となることがあります。また、機器外装が熱により変形することがあります。

●使用しないときは、電池を取り出し､保存してください。

カメラに、電池を入れたままにしておくと、電池が消耗します。

ストロボ

●発光部分にゴミやほこりなど異物がついたまま発光しないでください。

●発光部分を手や布などで覆ったまま発光しないでください。

煙や音が出て、故障の原因となったり、発熱によりストロボ発光部分の損傷の原因となることがあります。

●連続発光後、発光部分に触れないでください。

やけどの原因となることがあります。

取り扱い上のご注意

カメラ

電磁波による誤作動、破壊を防ぐために

●カメラをモーターや強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。

電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像のデータが破壊されることがあります。

結露を防ぐために

●カメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて密封しておき、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。

万一、結露が発生したときは、カードと電池をカメラから取り出し、水滴が自然に消えるまで、常温で放置してからお使いください。

電池

●このカメラで使用できる電池は、単 3 形アルカリ電池、キヤノン製単 3 形ニッケル水素電池（別売）です。

単 3 形ニカド電池もお使いになれますが、性能のばらつきがあり、おすすめはできません。

●アルカリ電池は銘柄によって、付属のアルカリ電池に比べ使用可能時間が短い場合があります。

アルカリ電池は銘柄により容量や特性に差があります。

●低温下や長時間カメラをお使いになるときは、キヤノン製の単3形ニッケル水素電池(別売)のご使用をおすすめします。

アルカリ電池は低温下では使用可能時間が短くなります。またニッケル水素電池に比べ、電池の寿命が短い場合があります。

●新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。

古い電池が液漏れを起こすことがあります。

●電極(⊕と⊖)を逆にして入れないでください。

●メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使わないでください。

●電池を入れる前に、電極を乾いた布などでよく拭いてください。

電極が皮脂などで汚れていると、記録可能画像数が著しく少なくなったり、電池の使用可能時間が短くなります。

●低温下では、電池の性能が低下したり、電池残量表示（▭）が早めに表示されることがあります。

使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、電池の性能が回復することがあります。

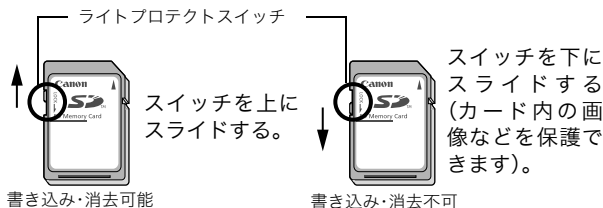
●ポケットで温めるときは、キーホルダーなどの金属類と一緒に入れないでください。

電池がショートするおそれがあります。

●長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出して保管してください。

電池を入れたままにしておくと、液漏れが原因でカメラが故障することがあります。

カード

●SD メモリーカード、SDHC メモリーカードのライトプロテクト（書き込み防止）スイッチについて

●曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。

●分解したり、改造しないでください。

●端子部にゴミや水、異物などを付着させたり、手や金属で触れたりしないでください。

●貼られているラベルをはがしたり、別のラベルやシールを貼ったりしないでください。

●文字を書くときは、鉛筆やボールペンを使用しないでください。必ず油性ペンをお使いください。

●下記の場所で使用したり、保管しないでください。

・ほこりや砂ぼこりの立つ場所

・高温多湿の場所

●大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

電気ノイズ、静電気、カメラやカードの故障などにより、カード内のデータが壊れたり、消失することがあります。

●初期化すると、プロテクトした画像も消去されます。

●このカメラで初期化したカードをお使いになることをおすすめします。

・付属のカードは、そのままお使いになれます。

・カメラが正しく動作しないときは、カードが壊れている可能性があります。初期化すると正しく動作する場合もあります。

・キヤノン製以外のカードで正しく動作しないときは、初期化すると正しくお使いになれることがあります。

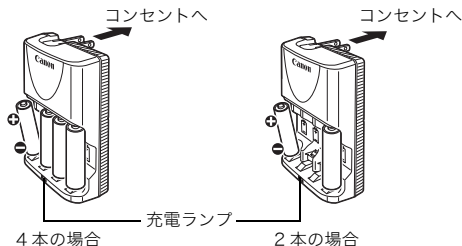
・他のカメラやパソコン、周辺機器で初期化したカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。その際は、このカメラで初期化してください。

●正しく初期化されないときは、電源を切ってから、カードを入れ直し、再度初期化してください。

●カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、ご注意ください。廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

電源キット(別売)の使いかた

充電式バッテリーを使う
(バッテリー / チャージャーキット CBK4-300)

バッテリーチャージャーと単3形ニッケル水素電池 4 本が入っています。次のように電池を充電してください。2 本でも充電できます。

・バッテリーチャージャーに電池を装着してから、コンセントに差してください。
・電池の充電開始後に、電池を追加して充電しないでください。
・充電中は充電ランプが点滅します。充電が終わると点灯に変わります。

- バッテリーチャージャーCB-5AH は、キヤノン製単 3 形ニッケル水素電池 NB-3AH を充電してください。
- 充電状態の異なる電池、購入時期の異なる電池を混ぜて使わないでください。電池を充電するときは、必ず、一緒に使用している 2 本を同時に充電してください。
- 電池を保護し、性能の劣化を防ぐため、フル充電された電池を再度充電しないでください。また、24 時間以上連続して充電しないでください。
- 熱のこもりやすい場所では充電しないでください。
- 充電は、「バッテリーを交換してください」というメッセージが液晶モニターに表示されてから行ってください。使い切らずに充電を繰り返すと、容量が低下することがあります。

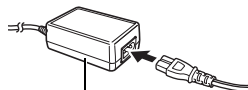
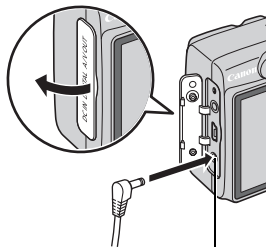
- 以下のときは、電池の電極を乾いた布などでよく拭いてください。電極が皮脂などで汚れていることがあります。
  - 電池の使用可能時間が著しく短いとき
  - 記録画像数が著しく少ないとき
  - 電池を充電するとき（さらに、電池の取り付けと取り外しを 2 〜 3 回繰り返してから充電してください。）
  - 電池の充電時間が数分程度で終了する（バッテリーチャージャーの充電ランプが点灯する）とき
- お買い求め直後や長期間お使いにならなかった電池は、十分に充電されないことがあります。このときは、フル充電して電池を使い切ることを数回繰り返してください。電池の性能が元に戻ります。
- 電池を長期間（1 年程度）保管する場合は、カメラで電池を使い切ってから、湿度の低い、室温（0 〜 30 ℃）で保管してください。フル充電の状態で長期間保管すると、電池の寿命を縮めたり、性能の劣化の原因となることがあります。また 1 年以上使用しないときは、年に 1 度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。
- 電極を拭いてから充電ランプが点灯するまで充電したにもかかわらず、電池の使用可能時間が著しく短いときは、電池の寿命と考えられます。新しい電池と交換してください。新しくお求めになるときは、キヤノン製の単 3 形ニッケル水素電池をご購入ください。
- 電池をカメラやバッテリーチャージャーに入れたままにしておくと、液漏れが原因で故障することがあります。使用しないときは、カメラやバッテリーチャージャーから取り出して、乾燥した冷暗所に保管してください。

- 電池を使い切った状態からフル充電するまでの時間は、約 4 時間 40 分です。2 本を両端にセットしたときは、約 2 時間です（当社測定基準による）。また、0 〜 35 ℃の環境で充電してください。
- 充電時間は、周囲の温度や充電状態により異なります。
- バッテリーチャージャーを使用中、音がすることがありますが故障ではありません。

AC アダプターキット ACK800 を使う

カメラを連続して長時間お使いになるときや、パソコンと接続するときは、AC アダプターキット ACK800（別売）のご利用をおすすめします。

カメラの電源を切って、コンパクトパワーアダプターの取り付けや取り外しを行ってください。

1 **コンパクトパワーアダプターに電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む**

2 **端子カバーを開き、DC 端子を接続する**

レンズ(別売)の使いかた

別売のワイドコンバーター WC-DC52、テレコンバーター TC-DC52A、クローズアップレンズ 250D（52mm）を取り付けるときは、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC52G が必要です。

- ワイドコンバーター / テレコンバーター/クローズアップレンズ をお使いになるときは、カメラに確実に取り付けてください。緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。
- ワイドコンバーター / テレコンバーター/クローズアップレンズ は、絶対に太陽や強烈なライトに向けないでください。レンズをのぞくと失明の恐れがあります。

- ストロボを使用すると、画像の周辺部（特に画面右下）が暗くなります。
- テレコンバーターは、テレ端の位置でお使いください。それ以外のズーム位置でお使いになると、画像が欠け（ケラレ）ることがあります。
- ワイドコンバーターは、ワイド端の位置でお使いください。
- ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け（ケラレ）て見えます。液晶モニターをお使いください。

■ ワイドコンバーター WC-DC52

広角撮影をするためのレンズで、焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の 0.7 倍になります（ねじ径 52mm）。

■ テレコンバーター TC-DC52A

望遠撮影をするためのレンズで、焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の 1.75 倍になります（ねじ径 52mm）。

ワイドコンバーターやテレコンバーターにフィルターやレンズフードは取り付けられません。

■ クローズアップレンズ 250D(52mm)
被写体を拡大して撮影するためのレンズです。通常モードで、レンズ前面から被写体までが、テレ端で 17 ～ 25cm の距離で撮影できます。

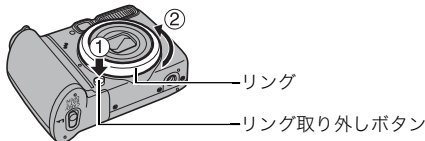
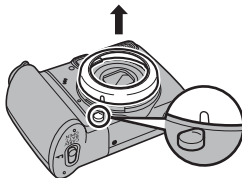
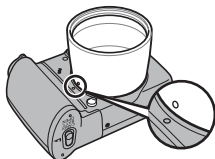
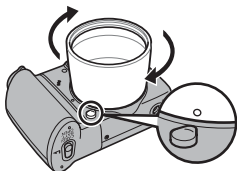
撮影範囲について

	レンズ前面から被写体までの距離	撮影範囲
テレ端	17cm	46 × 35mm

■ コンバージョンレンズアダプター LA-DC52G
ワイドコンバーターやテレコンバーター、クローズアップレンズを取り付けるためのレンズアダプターです（ねじ径 52mm）。

レンズを取り付ける

1 **電源が切れていることを確認する**

2 **リング取り外しボタンを押しながら(①)、リングを矢印の方向に回す(②)**

3 **リングの とカメラの が合ったら、リングを上に引き上げて外す**

4 コンバージョンレンズアダプターの●をカメラの◌に合わせてから、○のところまで矢印の方向に回して取り付ける

・コンバージョンレンズアダプターを取り外すときは、リング取り外しボタンを押しながら、反対方向に回します。

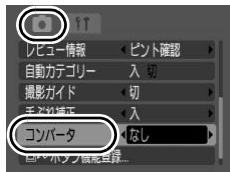
5 レンズを矢印の方向に回して確実に取り付ける

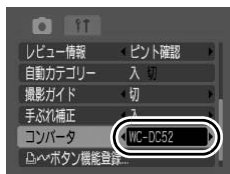
- ご使用前には、レンズ面のゴミをブロワーブラシなどで完全に取り除いてください。ゴミが付いていると、ゴミにピントが合ってしまいます。
- レンズには、指紋がつきやすいのでご注意ください。
- リングを外すときは、カメラやコンバージョンレンズアダプターを落とさないように注意してください。

コンバーターを設定する

別売のワイドコンバーター WC-DC52　やテレコンバーター TC-DC52A クローズアップレンズ 250D をカメラに取り付けて、[手ぶれ補正］機能（p.62）を使って撮影する場合に設定します。

1 [コンバータ]を選ぶ

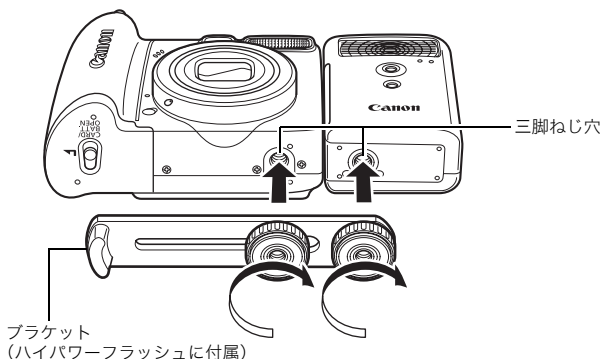
1. MENU を押す
2. [●] メニューから、▲/▼ で[コンバータ]を選ぶ

2 設定する

1. ◀/▶ で［WC-DC52］、[TC-DC52A]、[250D]のいずれかを選ぶ
2. MENU を押す

・取り付けたレンズを選びます。

レンズをカメラから取り外したときは、コンバータを［なし］の設定に戻してください。

補助ストロボ(別売)の使いかた

ハイパワーフラッシュ HF-DC1

被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに使用する外付け用補助ストロボです。次のようにカメラとハイパワーフラッシュをブラケットで固定して撮影してください。
ハイパワーフラッシュに付属の使用説明書も併せてご覧ください。

- 以下の場合、ハイパワーフラッシュは発光しません。
  - 撮影モードが**M**のとき
  - [発光モード]が[マニュアル]のとき(p.79)
- 電池が消耗するとハイパワーフラッシュの充電時間が長くなります。使用後はハイパワーフラッシュの電源 / 発光モードスイッチを必ず切ってください。
- 撮影中は、発光部や受光部を指でふさがないように注意してください。
- 撮影場所の周囲で他のカメラがストロボを使用していると、ハイパワーフラッシュが発光することがあります。
- 日中の野外や反射物がないときは、ハイパワーフラッシュが発光しないことがあります。

- 連続して撮影するときは、1画像目の撮影時は発光しますが、2画像目以降は発光しません。
- ブラケットの取り付けねじは、しっかり締め付けてください。カメラとハイパワーフラッシュが落下して故障の原因となります。

- ハイパワーフラッシュをブラケットに固定する前にリチウム電池（CR123A または DL123）が入れてあるか確認してください。
- 被写体に正しくストロボが当たるように、カメラとハイパワーフラッシュの前面は平行に、側面はぴったり合うように固定してください。
- ハイパワーフラッシュを取り付けた状態でも三脚はお使いになれます。

電池について

● 電池の使用可能時間が著しく短いとき

電池の電極を乾いた布などでよく拭いてからお使いください。電極が皮脂などで汚れていることがあります。

● 寒冷地でお使いになるとき

予備として市販のリチウム電池（CR123A または DL123）を用意してください。使用直前までポケットなどに入れて温めてから交互にお使いになることをおすすめします。

● お使いにならないとき

電池をハイパワーフラッシュに入れたままにしておくと、液漏れが原因で故障することがあります。ハイパワーフラッシュから取り出して乾燥した冷暗所に保管してください。

コイン型リチウム電池を交換する

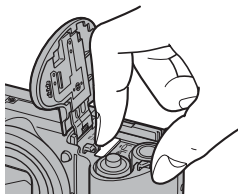
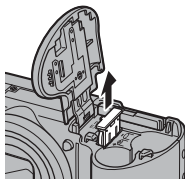
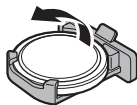
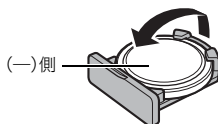
カメラの電源を入れたとき、日付 / 時刻の設定メニューが表示された場合は、コイン型リチウム電池の残量が低下し、日時の設定が消えています。市販のコイン型リチウム電池（CR1220）をお求めのうえ、次の手順で交換してください。

最初の電池は工場出荷時に組み込まれていますので、電池寿命が規定よりも短くなることがあります

コイン型リチウム電池は、お子様の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合、電池の素材の化学物質により胃、腸が侵される恐れがありますので、直ちに医師に相談してください。

1 電源が切れていることを確認する

2 メモリーカードスロット / バッテリーカバー開放スイッチをスライドして開く

3 コイン電池ホルダーに爪をかけて軽く引き上げる

4 矢印の方向に取り出す

5 コイン型リチウム電池を矢印の方向に引き上げながら取り出す

6 新しいコイン型リチウム電池の(−)側を上にして取り付ける

7 コイン電池ホルダーを元の位置に戻し、カバーを閉じる

8 日付 / 時刻設定メニューが表示されたら、日付 / 時刻を設定する(p.11)

カメラをご購入後、はじめて電源を入れたときにも、日付 / 時刻の設定画面が表示されますが、コイン型リチウム電池を交換する必要はありません。

海外で使うとき

電源について

海外でもお使いになれます。

バッテリーチャージャーや AC アダプターキットは、AC100 ～ 240V 50/60Hz までの電源に接続できます。ただし、電源コンセントの形状が異なる国では、変換プラグアダプターが必要になります（1 つの国の中でも地域によってコンセントの形状が異なる場合があります）。
変換プラグアダプターやコンセントの形状については、旅行代理店などで確認の上、あらかじめご用意ください。

コンパクトパワーアダプターやバッテリーチャージャーを海外旅行用の電子変圧器などに接続すると、故障、発熱、火災、感電、けがの原因となることがありますので、接続しないでください。

テレビでの再生

ビデオ出力方式は、初期設定では日本国内で採用している NTSC 方式に設定されていますが、海外の別方式（PAL 方式：主にヨーロッパ、オセアニア、アジア（一部地域を除く））に切り換えることができます。海外に旅行したときなどは、切り換えてお使いください（p.50）。

カメラのお手入れ

絶対にシンナーやベンジン、中性洗剤や水などを使ってクリーニングしないでください。部品の変形や故障の原因になることがあります。

カメラ本体

やわらかい布やメガネ拭きなどで汚れを拭き取ってください。

レンズ

市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払った後、やわらかい布で軽く拭き取ってください。

カメラ本体やレンズは、絶対に有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。どうしても汚れが落ちないときは、最寄りの修理受付窓口（別紙でご確認ください）にご相談ください。

ファインダー、液晶モニター

市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。

絶対に液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因となります。

主な仕様

すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により記載内容を予告なしに変更することがあります。

PowerShot A590 IS

(W):ワイド端　(T):テレ端

カメラ部有効画素数	:約 800 万画素
撮像素子	:1/2.5 型 CCD（総画素数 約 830 万画素）
レンズ	:5.8（W） – 23.2（T） mm (35mm フィルム換算 35（W） – 140（T） mm) F2.6（W） – F5.5（T）
デジタルズーム	:約 4.0 倍（光学ズームと合わせて最大約 16 倍）
光学ファインダー	:実像式ズームファインダー
液晶モニター	:2.5 型アモルファスシリコン TFT カラーモニター 約 11.5 万ドット、視野率 100%
AF 方式	:TTL オートフォーカス マニュアルフォーカス可能 AF フレームモード：顔優先 /AiAF＊1＊2 (9 点) / 中央 ＊1 特定の顔に移動・固定可能 ＊2 顔が検出されない場合は AiAF（9 点）になる
撮影距離 （レンズ先端より）	:通常撮影：45cm ～∞ マクロ撮影：5 ～ 45cm（W）/30 ～ 45cm（T） マニュアルフォーカス撮影 / らくらく： 5cm ～∞（W）/30cm ～∞（T） キッズ & ペット：1m ～∞
シャッター	:メカニカルシャッター ・電子シャッター併用
シャッタースピード	:1/60 ～ 1/2000 秒 15 ～ 1/2000 秒（すべての撮影モードを合わせたシャッタースピード範囲） ・シャッタースピードが 1.3 秒以上のときはノイズリダクション処理あり
手ぶれ補正	:レンズシフト式 入 / 撮影時 / 流し撮り / 切
測光方式	:評価＊1/ 中央部重点平均 / スポット＊2 ＊1 顔優先 AF 時は顔の明るさを考慮 ＊2 中央固定

露出補正	：± 2 段（1/3 段ステップ）
ISO 感度 (標準出力感度・推奨露光指数)	：オート*1、高感度オート*2、ISO 80/100/200/400/800/1600 *1 撮影モードや被写体の明るさに応じて、最適な感度に自動設定 *2 撮影モードや被写体の明るさ・動きに応じて、最適な感度に自動設定。ただし、「オート」に比べ高めに設定
ホワイトバランス	：オート* / 太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯 H / マニュアル * 顔優先 AF 時は顔の色味を考慮
内蔵ストロボ	：オート / 常時発光 / 発光禁止 ・顔優先 AF 時は顔の明るさを考慮
内蔵ストロボ 調光範囲	：30cm ～ 3.5m（W）/30cm ～ 2.2m（T） ・撮影距離によっては、画像周辺の明るさが低下することがある。
撮影モード	：オート らくらく クリエイティブゾーン： **P** プログラム、**Tv** シャッタースピード優先、**Av** 絞り優先、**M** マニュアル イメージゾーン： ポートレート、風景、ナイトスナップ、キッズ&ペット、パーティー / 室内、 **SCN** スペシャルシーン*1、動画*2 *1 夜景、夕焼け、新緑 / 紅葉、スノー、ビーチ、打上げ花火、水族館 *2 スタンダード、ライト
連続撮影	：約 1.4 画像 / 秒
セルフタイマー	：約 10 秒後 / 約 2 秒後 / カスタム
記録媒体	：SD メモリーカード / SDHC メモリーカード / マルチメディアカード / MMCplus カード / HC MMCplus カード
ファイルフォーマット	：DCF 準拠*、DPOF 対応 * DCF は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で、主として DSC 等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

データタイプ	：静止画：Exif 2.2（JPEG）＊ ：動画：AVI（画像データ：Motion JPEG、音声データ：WAVE（モノラル）） ：音声メモ：WAVE（モノラル） ＊このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Print は、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print 対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷結果を得ることができます。
圧縮率	：スーパーファイン / ファイン / ノーマル
記録画素数（静止画）	：ラージ　　　：3264 × 2448 画素 ミドル 1　　：2592 × 1944 画素 ミドル 2　　：2048 × 1536 画素 ミドル 3　　：1600 × 1200 画素 スモール　　：　640 ×　480 画素 日付写し込み：1600 × 1200 画素 ワイド　　　：3264 × 1832 画素
（動画）	：スタンダード ：640 × 480 画素（20 フレーム / 秒） 640 × 480 画素（20 フレーム / 秒 LP） ：320 × 240 画素（30 フレーム / 秒） カードの容量がいっぱいになるまで撮影可能＊1 （1 回の最大記録容量：4GB＊2） ：ライト：160 × 120 画素 （15 フレーム / 秒） 1 回の最長記録時間：3 分 ＊1 超高速のカード使用時（推奨カード：SDC-512MSH） ＊2 記録容量が 4GB に達していなくても、撮影時間が 1 時間に達した時点で記録を停止します。カードの容量、データ書き込み速度により、4GB または 1 時間に満たなくても記録を停止する場合があります。
再生モード	：シングル再生（ヒストグラム表示可能）/ インデックス再生（9 画像表示）/ 拡大再生（約 2 ～ 10 倍）/ 再生レジューム / フォーカスチェッカー / ジャンプ / マイカテゴリー / 動画再生（スロー再生可能）/ 回転 / スライドショー / 赤目補正 / リサイズ / 音声メモ（最長 1 分まで記録 / 再生が可能）/ プロテクト

ダイレクトプリント方式	：PictBridge / CP ダイレクト / Bubble Jet ダイレクト対応
インターフェース	：Hi-Speed USB（mini-B） 映像 / 音声出力端子（NTSC または PAL 切換可能、モノラル音声）
通信プロトコル設定	：MTP、PTP
電源	：単 3 形アルカリ電池（2 本） 単 3 形充電式ニッケル水素電池（NB4-300）（別売）、AC アダプターキット ACK800（別売）
動作温度	：0 ～ 40 ℃（NB-3AH 使用時は 0 ～ 35 ℃）
動作湿度	：10 ～ 90%
大きさ （突起部を除く）	：94.3 × 64.7 × 40.8mm
質量（本体のみ）	：約 175g

電池性能

	撮影画像数	再生時間
	液晶モニター表示時 （CIPA 測定法準拠）	
単 3 形アルカリ電池 （付属品）	約 200 画像	約 9 時間
単 3 形ニッケル水素電池 （NB-3AH（フル充電））	約 450 画像	約 11 時間

- 撮影画像数は、撮影状況、撮影モードなどにより異なります。
- 動画データは除きます。
- 使用環境温度が下がると、電池の性能が低下したり、電池残量表示（赤点滅）が早めに表示されることがあります。このような場合は、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、電池の性能が回復することがあります。

＜測定条件＞

撮影：常温（23 ± 2 ℃）・常湿（50 ± 20%）で、2 回に 1 回ストロボを発光させながら、30 秒間隔でワイド端とテレ端で交互に撮影し、10 画像撮影後に電源切。十分な時間*が経過した後、再び電源を入れて同様の方法で撮影を繰り返す。

・キヤノンブランドのメモリーカードを使用

＊電池の温度が常温に戻るまでの時間

再生：常温（23 ± 2 ℃）・常湿（50 ± 20%）の環境において、1 画像あたり 3 秒間隔で連続再生。

電池の取り扱い（p.160）

カードの種類と記録可能画像数 / 時間(目安)

□ :付属のカード

記録画素数	圧縮率	32MB	SDC-128M	SDC-512MSH
L (ラージ) 3264 × 2448 画素	S	8	35	139
	F	14	59	231
	N	30	123	479
M1 (ミドル 1) 2592 × 1944 画素	S	11	49	190
	F	21	87	339
	N	42	173	671
M2 (ミドル 2) 2048 × 1536 画素	S	18	76	295
	F	33	136	529
	N	66	269	1041
M3 (ミドル 3) 1600 × 1200 画素	S	30	121	471
	F	53	217	839
	N	102	411	1590
S (スモール) 640 × 480 画素	S	114	460	1777
	F	177	711	2747
	N	278	1118	4317
(日付写し込み) 1600 × 1200 画素	F	53	217	839
W (ワイド) 3264 × 1832 画素	S	11	47	183
	F	19	79	307
	N	41	166	642

当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件により変わります。

動画

□：付属のカード

	記録画素数 / フレームレート		32MB	SDC-128M	SDC-512MSH
スタンダード	640	640 × 480 画素 20 フレーム / 秒	23 秒	1 分 36 秒	6 分 12 秒
	640 LP	640 × 480 画素 20フレーム/秒 LP	47 秒	3 分 10 秒	12 分 16 秒
	320	320 × 240 画素 30 フレーム / 秒	44 秒	3 分 1 秒	11 分 42 秒
ライト	160	160 × 120 画素 15 フレーム / 秒	3 分 36 秒	14 分 29 秒	55 分 57 秒

・ 動画の 1 回の最長記録時間は、：3 分です。表中の数値は、繰り返し撮影した場合の最大記録可能時間です。

1 画像の容量（目安）

記録画素数		圧縮率		
		S		
L	3264 × 2448 画素	3436KB	2060KB	980KB
M1	2592 × 1944 画素	2503KB	1395KB	695KB
M2	2048 × 1536 画素	1602KB	893KB	445KB
M3	1600 × 1200 画素	1002KB	558KB	278KB
S	640 × 480 画素	249KB	150KB	84KB
	1600 × 1200 画素	ー	558KB	ー
W	3264 × 1832 画素	2601KB	1540KB	736KB

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">記録画素数 / フレームレート</th><th>容量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">スタンダード</td><td>640</td><td>640 × 480 画素
20 フレーム / 秒</td><td>1280KB/ 秒</td></tr>
<tr><td>640 LP</td><td>640 × 480 画素
20 フレーム / 秒 LP</td><td>640KB/ 秒</td></tr>
<tr><td>320</td><td>320 × 240 画素
30 フレーム / 秒</td><td>660KB/ 秒</td></tr>
<tr><td>ライト</td><td>160</td><td>160 × 120 画素
15 フレーム / 秒</td><td>120KB/ 秒</td></tr>
</table>

マルチメディアカード

インターフェース	マルチメディアカード規格準拠インターフェース
大きさ	32.0 × 24.0 × 1.4mm
質量	約 1.5g

SD メモリーカード

インターフェース	SD メモリーカード規格準拠インターフェース
大きさ	32.0 × 24.0 × 2.1mm
質量	約 2g

ニッケル水素電池 NB-3AH

(別売のニッケル水素電池パックNB4-300またはバッテリー / チャージャーキット CBK4-300 に付属)

形式	単 3 形ニッケル水素電池
公称電圧	DC 1.2V
公称容量	2500mAh(最小:2300mAh)
充放電回数	約 300 回(目安)
使用温度	0 〜 35 ℃
直径×長さ	14.5mm × 50.0mm
質量	約 30g

Ni-MH

・ニッケル水素電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
・交換後不要になった電池、及び使用済み製品から取り外した電池のリサイクルに関しては、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池 BOX に入れてください。
・リサイクル協力店へのお問い合わせは、以下へお願いします。
- 製品、ニッケル水素電池をご購入いただいた販売店
- 「有限責任中間法人 JBRC」および「キヤノン / キヤノンマーケティングジャパン」

・小型二次電池の回収については、下記のキヤノンホームページ上で確認できます。

キヤノンサポートページ
canon.jp/support

バッテリーチャージャー CB-5AH

（別売のバッテリー / チャージャーキット CBK4-300 に付属）

定格入力	AC100 ～ 240V（50/60Hz）
定格出力	565mA＊1× 4、1275mA＊2× 2
充電時間	約 4 時間 40 分＊1、約 2 時間＊2
使用温度	0 ～ 35 ℃
大きさ	65.0 × 105.0 × 27.5mm
質量	約 95 g

＊1 NB-3AH 4 本の充電時
＊2 NB-3AH 2 本をバッテリーチャージャーの両端にセットしたときの充電時

コンパクトパワーアダプター CA-PS800

（別売の AC アダプターキット ACK800 に付属）

定格入力	AC100 ～ 240V（50/60Hz）
定格出力	DC3.15V、2.0A
使用温度	0 ～ 40 ℃
大きさ	42.6 × 104.0 × 31.4mm
質量	約 180g（電源コードを除く）

ワイドコンバーター WC-DC52（別売）

倍率	0.7 倍
焦点距離＊1	24.5mm 相当（35mm フィルム換算）
撮影距離＊1	21cm ～∞（W）＊2
ねじ径	52mm 標準フィルターねじ＊3
最大径×長さ	58.0 × 30.5mm
質量	約 74g

テレコンバーター TC-DC52A（別売）

倍率	1.75 倍
焦点距離＊4	245mm 相当（35mm フィルム換算）
撮影距離＊4	1.4m ～∞（T）＊2
ねじ径	52mm 標準フィルターねじ＊3
最大径×長さ	55.2 × 46.7mm
質量	約 86g

クローズアップレンズ 250D 52mm(別売)

撮影距離 (レンズ先端より)	通常撮影:17 ～ 25cm(W/T) マクロ撮影:4 ～ 17cm(W/T)
ねじ径	52mm 標準フィルターねじ*3
最大径×長さ	54.0 × 10.2mm
質量	約 55g

コンバージョンレンズアダプター LA-DC52G(別売)

ねじ径	52mm 標準フィルターねじ
最大径×長さ	55.7 × 36.8mm
質量	約 14g

(W):ワイド端 (T):テレ端

*1 PowerShot A590 IS 装着時(ワイド端)

*2 装着したコンバーターの先端より

*3 PowerShot A590 IS に装着時は、コンバージョンレンズアダプター LA-DC52G が必要

*4 PowerShot A590 IS 装着時(テレ端)

索引

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド(本書)に従って正しい取り扱いをしてください。

各撮影モードで設定できる機能一覧

撮影モードによっては、お使いになれない機能があります。以下の表でご確認ください。

機能 ＼ 撮影モード			M	Av	Tv	P	AUTO	[かんたん]	[ポートレート]	[風景]
露出補正(p.91)			–	○	○	○	–	–	○	○
ISO感度(p.64)	オート[1]		–	○	○	○	○	–	○	○
	高感度オート		–	–	–	○	○	○	–	–
	ISO 80～1600		○	○	○	○	–	–	–	–
ホワイトバランス(p.93)	オート[1]		○	○	○	○	○	○	○	○
	オート以外		○	○	○	○	–	–	–	–
ドライブモード(p.78、58)	1画像撮影		○	○	○	○	○	○	○	○
	連続撮影		○	○	○	○	–	–	○	○
	セルフタイマー	2秒/10秒	○	○	○	○	○	–	○	○
		カスタム	○	○	○	○	○	–	○	○
カスタムセルフタイマー設定(時間/枚数)(p.59)			○	○	○	○	○	–	○	○
マイカラー(p.96)			○	○	○	○	–	–	–	–
ストロボ調光補正(p.79)			–	○	○	○	–	–	–	–
ストロボ発光量(p.79)			○	○	○	–	–	–	–	–
測光方式(p.92)	評価		○	○	○	○	○	○	○	○
	中央部重点平均		○	○	○	○	–	–	–	–
	スポット		○	○	○	○	–	–	–	–
記録画素数・圧縮率(静止画)(p.60、61)			○	○	○	○	○	–[2]	○	○
日付写し込み設定(日付のみ / 日付＋時刻)(p.20)			○	○	○	○	○	–	○	○
記録画素数・フレームレート(動画)(p.77)	640 × 480、20fps / 20fps LP		–	–	–	–	–	–	–	–
	320 × 240、30fps		–	–	–	–	–	–	–	–
	160 × 120、15fps		–	–	–	–	–	–	–	–
Av/Tv設定	Av(p.72)		○	○	–	–	–	–	–	–
	Tv(p.70)		○	–	○	–	–	–	–	–
撮影域(p.57)	通常		○	○	○	○	○	–[3]	○	○
	マクロ		○	○	○	○	○	–	○	–
マニュアルフォーカス(p.89)			○	○	○	○	–	–	○	○
顔セレクト(p.86)			○	○	○	○	○	–	○	○
ストロボ(p.57)	オート		–	–	–	○	○	○	○	○
	常時発光		○	○	○	○	–	–	○	○
	発光禁止		○	○	○	○	○	○	○	○
液晶モニターの表示状態(p.51)	切		○	○	○	○	○	–	○	○
	情報表示なし		○	○	○	○	○	–	○	○
	情報表示あり		○	○	○	○	○	○	○	○

			SCN								
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	－	○	－	○	○	○	○	－	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

機能 ＼ 撮影モード			M	Av	Tv	P	AUTO			
AF フレーム(p.84)	顔優先		○	○	○	○	○	○	○	○
	AiAF(9 点)		○	○	○	○	○	–	○	○
	中央		○	○	○	○	○	–	○	○
ピント位置拡大(p.81)			○	○	○	○	○	–	○	○
デジタルズーム[4](p.53)	入		○	○	○	○	○	○[5]	○	○
	デジタルテレコン		○	○	○	○	○	–	○	○
ストロボ設定(p.79)	発光モード	オート	–	○	○	○	○	○	○	○
		マニュアル	○	○	○	–	–	–	–	–
	調光補正		–	○	○	○	–	–	–	–
	発光量		○	○	○	–	–	–	–	–
	赤目自動補正		○	○	○	○	○	–	○	○
	赤目緩和ランプ		○	○	○	○	○	○[5]	○	○
	セーフティFE		–	○	○	○	–	–	–	–
MF 拡大表示(p.89)			○	○	○	○	–	–	○	○
セーフティMF(p.90)			○	○	○	○	–	–	○	○
AF 補助光(p.47)			○	○	○	○	○	○[6]	○	○
撮影の確認(p.47)			○	○	○	○	○	–[8]	○	○
レビュー情報(p.47)	非表示		○	○	○	○	○	○	○	○
	詳細表示/ピント確認		○	○	○	○	○	–	○	○
自動カテゴリー(p.99)			○	○	○	○	○	○[5]	○	○
撮影ガイド(p.98)	グリッドライン		○	○	○	○	○	–	○	○
	3:2 ガイド/両方		○	○	○	○	○	–	○	○
手ぶれ補正(p.62)	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	撮影時/流し撮り		○	○	○	○	○	–	○	○
コンバータ(p.169)			○	○	○	○	○	–	○	○
イージーダイレクトボタン機能登録(p.100)			○	○	○	○	○	–	○	○

○ :選択可、またはカメラが自動的に設定。
– :選択不可

1) 撮影モードに応じた最適値に設定
2) 記録画素数はラージ、圧縮率はファインに固定
3) マクロ域を含む
4) 日付写し込み、ワイド選択時は設定不可
5) 常時入
6) ストロボ発光時は常時入
7) ストロボ常時発光時に選択可
8) 2 秒に固定

			SCN								
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	–	○[7]	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○